

「処分地全域での地下水における環境基準の到達及び達成の確認マニュアル」 の作成

「豊島処分地における地下水浄化対策等に関する基本的事項」(H29. 10. 9 第 2 回豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会 (以下、「フォローアップ委員会」という。)) により、処分地全域での地下水における環境基準の到達及び達成の確認手法については、豊島処分地地下水・雨水等対策検討会 (以下、「地下水検討会」という。) において案を策定し、フォローアップ委員会で承認を得ることと定められている。これらを踏まえ、第 20 回地下水検討会において検討し、マニュアル案を整理した。

今回、フォローアップ委員会で審議のうえ、「処分地全域での地下水における環境基準の到達及び達成の確認マニュアル」として決定・承認いただきたい。

豊島廃棄物等処理施設撤去等事業

処分地全域での地下水における 環境基準の到達及び達成の確認マニュアル (案)

<目次>

1. マニュアルの主旨	1
2. 環境基準の到達の承認に関する事項	1
2. 1 基本的事項における定義	1
2. 2 環境基準の到達の承認とその手続き	1
2. 3 地下水汚染地点	1
2. 4 地下水計測点等	2
2. 5 環境基準の到達の承認申請の内容	3
3. 環境基準の達成の確認に関する事項	4
3. 1 基本的事項における定義	4
3. 2 環境基準の達成の確認とその手続き	4
3. 3 地下水汚染地点	4
3. 4 地下水計測点等	4
3. 5 直近の計測日まで環境基準を満たしたことを証する条件	5
3. 6 環境基準の達成の確認の承認申請の内容	5

【修正履歴】

年 月 日	摘 要	審 議 等
R3.O.O	第12回フォローアップ委員会	マニュアルの策定

1. マニュアルの主旨

本マニュアルは、「豊島処分地における地下水浄化対策等に関する基本的事項」(H29.10.9 第2回フォローアップ委員会¹) (以下、「基本的事項」という。)に基づき、処分地の地下水の環境基準の到達及び達成の確認手法について規定するものである。

2. 環境基準の到達の承認に関する事項

2.1 基本的事項における定義

環境基準の到達に関しては、基本的事項において、次のとおり定義されている。

「環境基準に到達：排水基準達成の確認後、地下水検討会²が、別に定める規定に従って、自然浄化により汚染物質の濃度が環境基準値を満たすと認めた場合をいう。その根拠となった計測結果や計測日等を指すこともある。」

2.2 環境基準の到達の承認とその手続き

県は、2.3に示す地下水汚染地点において地下水の排水基準の到達を申請し、その後検討会においてこれらの地下水汚染地点での排水基準の達成が承認された。

環境基準の到達とは、上記の地下水汚染地点に関し、2.4に掲げる地下水計測点並びに計測項目、計測期間によって得られた計測値等を用い、県が、当該地下水計測点の地下水の汚染物質の濃度が環境基準を今後安定的に満たすと推定されるに足る2.5に示す資料を付して地下水検討会に申請し、同検討会がこれを認めた場合とする。また、到達の時点は、これを認めた直近の計測日とする。

2.3 地下水汚染地点

地下水汚染地点の位置を図1に示す。地下水汚染地点は令和元年8月3日(第8回地下水検討会)に報告された平成30年1月から令和元年6月に掛けて実施した地下水汚染領域の把握のための調査の結果において、排水基準値を超過していた31区画(区画②⑥⑨⑪⑫⑬⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺、D測線西側)である。各区画は30mメッシュの範囲であり、D測線西側は2測線以南60m・C+30以西50mの範囲である。その後、地下水の浄化対策を進め、いずれの地点でも上述したように排水基準の達成が実現している。

したがって、処分地内の汚染物質濃度は低減し、均質化の方向に進んでいる。

¹ 豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会

² 豊島処分地地下水・雨水等対策検討会



図1 地下水汚染地点の位置

2.4 地下水計測点等

(1) 地下水計測点

環境基準の到達においては、処分地全体に平面的に分散して地下水計測点を配置する。具体的には、各区画を基本として、できる限り重複しないように90m四方のエリアを設定し、各エリア内において以下のとおり地下水計測点を1地点選定する。また、地下水計測点の位置を図2に示す。

区画⑪：HS-⑩によるベンゼン等の汚染区画の代表地点かつ地下水の流れの下流側の地点

区画⑩：HS-⑩による1,4-ジオキサン等の汚染区画の上流側の代表地点

区画⑩：HS-⑩による1,4-ジオキサン等の汚染範囲の下流側の代表地点かつ地下水の流れの下流側の地点

D測線西側 (B+40, 2+30)：HS-D西によるトリクロロエチレン等の汚染区画の代表地点

採水深度は、土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン（改訂第3版H31/3）の規定を準用し、観測井設置時の地下水表面から岩着あるいは地下水汚染領域の把握のための調査で確認した汚染領域の下端までに設けたスクリーン区間の中間深度とする。



図2 地下水計測点の位置

(2) 計測項目

計測項目については、排水基準の到達・達成に引き続き、ベンゼン、1,4-ジオキサン、トリクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン及びクロロエチレン(以下、「5物質」という。)を対象とする。また、海水の影響を把握するため、参考として塩化物イオン濃度を測定する。

(3) 計測期間

排水基準の達成の確認後から直近の計測までのすべての時点のデータとともに、それ以前のデータを活用する。

2.5 環境基準の到達の承認申請の内容

今後安定的に環境基準を満たすと認める以下の根拠及び汚染物質濃度の見通しを整理し、様式1にて県が地下水検討会へ環境基準の到達の承認を申請するものとする。

○地下水の5物質の濃度の推移の整理と分析・予測

地下水の5物質の直近1回の計測値が環境基準を満たしていることを示すとともに、5物質の濃度推移を整理・分析する。これを基に今後の汚染物質の濃度を予測し、それが安定的に環境基準を満たすことを示す。

・例えば、「直近の計測値が環境基準を満たしており、濃度推移が低下傾向であり、今後この状況が安定的に維持される見通しである」等を示す。

○本件処分地内における自然浄化対策等の実施の経緯・経過

本件処分地内で排水基準の達成以降に行ってきた自然浄化の促進策等の実施状況を示す。

3. 環境基準の達成の確認に関する事項

3.1 基本的事項における定義

環境基準の達成の確認については、基本的事項において、次のとおり定義されている。
「環境基準達成の確認：環境基準に到達後、地下水検討会が、別に定める規定に従って、汚染物質の濃度が環境基準値を満たしていると確認した場合をいう。その根拠となった最終の計測日等を指すこともある。また、この達成の確認を「地下水浄化の達成あるいは完了」と表現することもある。」

3.2 環境基準の達成の確認とその手続き

環境基準の達成の確認とは、3.3に示す地下水汚染地点に関し、3.4に掲げる地下水計測点並びに計測項目、計測期間によって得られた計測値等を用い、県が、当該地下水計測点の地下水の汚染物質の濃度が3.5のとおり直近の計測日まで環境基準を満たしており、今後も確実に満たすと推定されるに足る3.6に示す資料を付して地下水検討会に申請し、同検討会がこれを確認し、認めた場合とする。また、達成の時点は、これを認めた直近の計測日とする。

3.3 地下水汚染地点

地下水汚染地点は到達の場合と同様、図1に示す地点とする。

3.4 地下水計測点等

(1) 地下水計測点

地下水計測点は到達の場合と同様、図2に示す4地点とする。
採水深度についても到達の場合と同様とする。

(2) 計測項目

計測項目は到達の場合と同様、5物質を対象とする。また、海水の影響を把握するため、参考として塩化物イオン濃度を測定する。

なお、県が環境基準の達成の確認を申請する際には、すべての地下水環境基準項目を計測するものとする。

(3) 計測期間

環境基準の到達から直近の計測までのすべての時点のデータとともに、それ以前のデータを活用する。

(4) 計測頻度

計測頻度については、原則として年4回とする。

3.5 直近の計測日まで環境基準を満たしたことを証する条件

表記の条件は、以下を満足した場合とする。

直近の計測日までの1年間にわたる計測値から算出した平均値が、環境基準を満足していること。

3.6 環境基準の達成の確認の承認申請の内容

今後も確実に環境基準を満たすと認める以下の根拠及び汚染物質濃度の見通しを整理し、様式2にて県が地下水検討会へ環境基準の達成の確認を申請するものとする。

○地下水の5物質の濃度の推移の整理と分析・予測

地下水の5物質の年間平均値が環境基準を満たしていることを示すとともに、5物質の濃度推移を整理・分析する。これを基に今後の汚染物質の濃度を予測し、それが確実に環境基準を満たすことを示す。

- ・例えば、「濃度の年間平均値が環境基準を満たしており、今後もこの状況が確実に維持される見通しである」等を示す。

○5物質以外の汚染物質濃度の状況

直近の計測による5物質以外の汚染物質濃度を整理して示す。

○本件処分地内における自然浄化対策等の実施の経緯・経過

本件処分地内で排水基準の達成以降に行ってきた自然浄化の促進策等の実施状況を示す。

令和 年 月 日

環境基準の到達に関する地下水汚染地点の状況説明

地下水計測点	・「区画〇」と記載する。
汚染物質濃度の推移の整理と分析・予測	・地下水の5物質の直近1回の計測値が環境基準を満たしていることを示し、グラフや表等にて5物質の濃度推移を整理・分析する。これを基に今後の汚染物質の濃度を予測し、それが安定的に環境基準を満たすことを示す。 ・例えば、「直近の計測値が環境基準を満たしており、濃度推移が低下傾向であり、今後もこの状況が安定的に維持される見通しである」等を示す。 ・海水の影響を把握するため、参考として測定する塩化物イオン濃度の推移を整理する。
本件処分地内における自然浄化対策等の実施の経緯・経過	・本件処分地内で排水基準の達成以降に行ってきた自然浄化の促進策等の実施状況を示す。
今後の汚染物質濃度の見通し	・「以上より当該地下水汚染地点では今後安定的に環境基準を満たすと想定されること」を記載する。

令和 年 月 日

環境基準の達成の確認に関する地下水汚染地点の状況説明

地下水計測点	<ul style="list-style-type: none"> ・「区画〇」と記載する。
汚染物質濃度の推移の整理と分析・予測	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水の5物質の年間平均値が環境基準を満たしていることを示し、グラフや表等にて5物質の濃度推移を整理・分析する。これを基に今後の汚染物質の濃度を予測し、それが確実に環境基準を満たすことを示す。 ・例えば、「濃度の年間平均値が環境基準を満たしており、今後もこの状況が確実に維持される見通しである」等を示す。 ・海水の影響を把握するため、参考として測定する塩化物イオン濃度の推移を整理する。
5物質以外の汚染物質濃度の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・表等にて、直近の計測による5物質以外の汚染物質濃度を整理して示す。
本件処分地内における自然浄化対策等の実施の経緯・経過	<ul style="list-style-type: none"> ・本件処分地内で排水基準の達成以降に行ってきた自然浄化の促進策等の実施状況を示す。
今後の汚染物質濃度の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・「以上より当該地下水汚染地点では今後も確実に環境基準を満たすと想定されること」を記載する。

排水基準の達成後の地下水浄化に対する基本的対応

第 19 回豊島処分地地下水・雨水等対策検討会（以下「地下水検討会」という。）において、「処分地全域での地下水における排水基準の到達及び達成の確認マニュアル」に基づき、排水基準の達成が確認された。

これを受け、今後、環境基準の達成までの間に実施する地下水計測及び地下水浄化対策などについて、第 20 回地下水検討会を経て、以下のような対応を基本とすることを取りまとめた。

1 リバウンド及びその対策ならびに追加的浄化対策の定義

本文で使用する用語を以下のように定義する。

- (1) リバウンド：排水基準の達成の確認から環境基準の到達までに実施した地下水計測において汚染物質の濃度が、例えば以下のような状態であって、地下水検討会がリバウンド現象と認定した場合をいう。なお、ここでの「地下水計測」とは、「処分地全域での地下水における環境基準の到達及び達成の確認マニュアル」（以下「環境基準の到達・達成マニュアル」という）における地下水計測点における計測結果をいう。
 - ・ 同一の汚染物質に関する 2 回以上の計測結果において、連続して排水基準を超える場合
 - ・ 連続はしていないが、数次にわたって同一の汚染物質の計測結果が排水基準を超える場合
 - ・ 1 回の計測値が排水基準を超え、同じ汚染物質のそれ以前の計測結果が上昇傾向にある場合
- (2) リバウンド対策：リバウンドが発生した地下水計測点において実施する揚水浄化、注水浄化、化学処理浄化及びそれらを併用した地下水浄化対策をいう。
- (3) 追加的浄化対策：排水基準の達成の確認後に、環境基準の達成の促進のため、必要に応じて局所的な汚染源に対して実施する地下水浄化対策をいう。南山側雨水による浸透池等を活用した自然浄化の促進策もこれに含める。

2 高度排水処理施設等の停止後の地下水浄化に対する基本的考え方

排水基準の達成後、令和 3 年 8 月中に高度排水処理施設及び簡易地下水処理施設を停止し、所定の手続き及び手順に従って、これらの施設は令和 3 年度中に撤去する予定である。排水基準の達成後の地下水浄化対策に対する対応のイメージを図 1 に示す。

主要な点は以下のとおりである。

【全体の行程】

- ① 環境基準の到達・達成マニュアルに基づく地下水計測を環境基準の達成の確認まで継続して実施し、その結果や分析・検討等を適宜地下水検討会に報告して指導・助言を受ける。
- ② 遮水機能の解除後に、その効果が現れる時期の地下水計測結果については、特に注目して分析・検討する。
- ③ 環境基準の到達・達成マニュアルに規定される条件を満たすと判断するときに地下水検討会に環境基準の到達を申請し、承認を受ける。

- ④ 同じく上記マニュアルに規定される条件を満たすと判断するときに地下水検討会に環境基準の達成の申請を行い、確認を受ける。なお、環境基準の到達から達成までは同マニュアルの規定により1年以上の間隔を置く。

【地下水浄化対策の適用】

- ⑤ 環境基準の達成までの間、地下水浄化に対して自然浄化対策を適用する。ただし、南山側雨水による浸透池等を用いた自然浄化促進策は追加的浄化対策の一部とし、その適用は整地の開始前までを原則とする。なお、その後も南山側雨水は本件処分地に自然流下し、自然浄化対策として活用される。
- ⑥ 追加的浄化対策として、上記に加え、排水基準の達成の確認の際に地下水検討会で定められた方策を中心に、揚水浄化、注水浄化、化学処理浄化及びそれらの併用策を適用し、積極的な地下水の浄化を図る。前述したように、原則として遅くとも整地の開始までには終了する。
- ⑦ 以上のような地下水浄化対策の適用・評価等や処分地全域の水管理について地下水検討会の指導・助言を受ける。

【リバウンド対策の実施】

- ⑧ リバウンドと認定された場合には、地下水検討会の指導・助言の下で、それを解消するための対策を実施する。同検討会で対策の効果等を検討いただき、リバウンドが解消されたと判定されたときをもって、その対策を終了する。
- ⑨ 北海岸近傍の地下水計測点においてリバウンドの発生が認められた場合には、海域保全への配慮から迅速な対応を講じるものとする。
- ⑩ 後述するように、整地開始までとその後では異なる内容のリバウンド対策を採る。

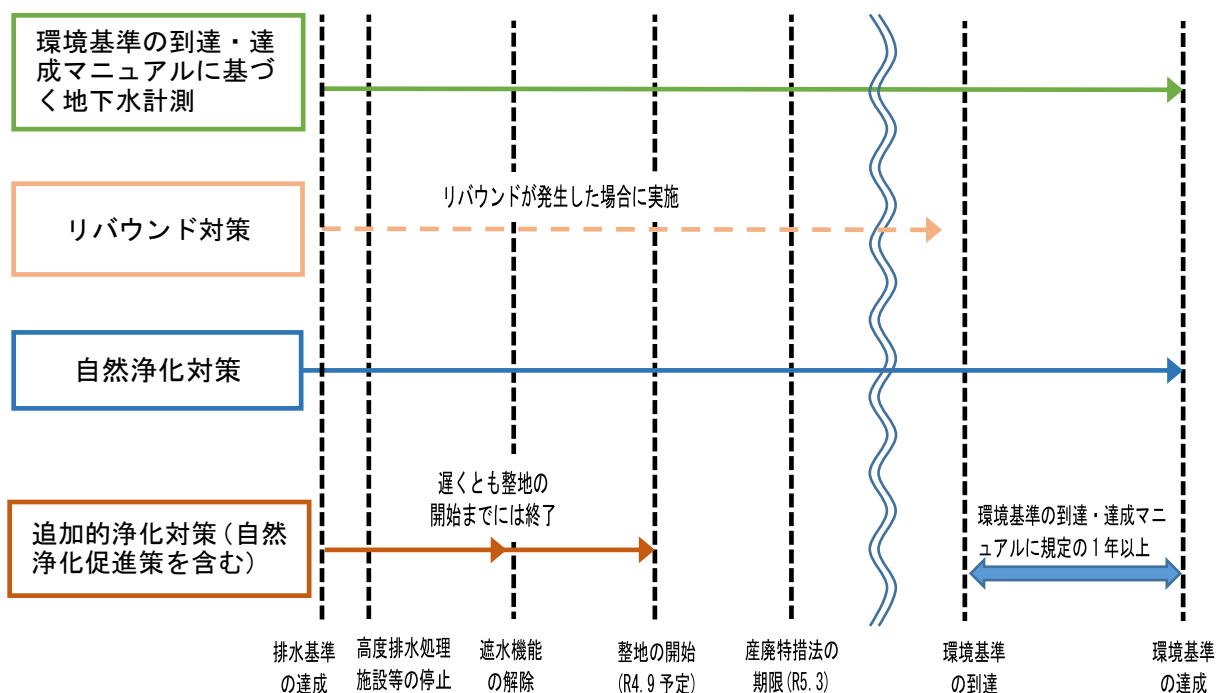


図1 排水基準の達成後の地下水浄化に対する対応のイメージ

3 地下水の各種浄化対策の内容

(1) 追加的浄化対策

地下水の追加的浄化対策の適用において貯留トレンチの活用は処分地の整地開始前までとする。

① 南山側雨水による浸透池等を活用した自然浄化促進策

南山側の雨水を本件処分地に導き、浸透池等を活用して自然浄化の促進策とする。この方策の適用は、整地の際に南山側の側溝を撤去することになることから、原則として整地開始までとする。ただし前述したように、その後も南山側雨水は本件処分地に自然流下し、自然浄化対策として活用される。

② 揚水浄化

揚水した地下水は浸透池から地下浸透させ、又は貯留トレンチに貯留し、排水基準以下であることを確認した上で放流する。なお、貯留トレンチの貯留水は地下水浄化に活用する場合がある。

③ 注水浄化

注水としては、貯留トレンチの貯留水や集水雨水等を活用する。

④ 化学処理浄化

化学処理浄化を適用する場合には、過硫酸ナトリウムによる方法を採用する。

(2) リバウンド対策

リバウンド対策としては、上記と同様の揚水浄化、注水浄化、化学処理浄化及びそれらを併用した地下水浄化対策を適用するものとする。ただし、貯留トレンチを活用する対策は整地開始前までとする。

4 追加的浄化対策の実施に関する考え方

排水基準の達成後も、その確認の際に地下水検討会で定められた浄化対策を中心に、整地開始前までの間に地下水浄化を進め、環境基準の達成の促進を図る。追加的浄化対策を適用する局所的な汚染源とそれへの具体的対応を表1に示す。

表1 追加的浄化対策の対象となる局所的な汚染源と具体的な対応

局所的な汚染源	具体的な対応
HS-⑩：区画⑩⑩付近のベンゼン等の汚染	・浸透池、貯留トレンチ等を活用した揚水浄化を実施
HS-⑳：区画⑳付近の1,4-ジオキサン等の汚染	・浸透池、貯留トレンチ等を活用した揚水・注水浄化を実施
HS-D西：D測線西側付近のトリクロロエチレン等の汚染	・過硫酸ナトリウムによる化学処理浄化及び浸透池、貯留トレンチ等を活用した揚水・注水浄化を実施

各種マニュアル等の見直し

1. 概要

豊島廃棄物等処理施設撤去等事業の進捗等に合わせて、各種マニュアル等の必要な見直しを行うものである。

2. 対象のマニュアル等

今回、対象となるマニュアル等は次のとおりである。

資料番号 (別紙等)	マニュアル等	見直しの概要
別添 1 (別紙 1～4、 参考)	豊島廃棄物等処理施設撤去等事業における新型コロナウイルス感染症の拡大防止ならびに感染者発生時の対応	引用資料の改正等に伴う修正

豊島廃棄物等処理施設撤去等事業における 新型コロナウイルス感染症の拡大防止ならびに感染者発生時の対応

香川県環境森林部廃棄物対策課

1 基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症の拡大防止措置ならびに感染者が発生した場合の対応については、香川県としての職場向けの通知が別紙1「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた職場における対応について（通知）」（令和2年4月8日・令和3年5月31日改正）及び別紙2「県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）等が発生した場合の対応について（通知）」（令和2年12月8日）のように提示されている。豊島廃棄物等処理施設撤去等事業（以下、豊島事業という）の遂行に当たっても、これに従って進めることとする。また、豊島事業に関連する会合等については、別紙3「催物（イベント等）の開催制限の段階的緩和の当面の方針について」（令和2年9月15日・令和3年6月28日改正）に基づき、対処する。なお、これらの内容が変更・改訂等された場合には、それに従う。

また、施設の操業や各種工事等の実施に当たっては、委託先の事業者等が関与するが、そうした人々にも上記の通知の該当箇所を励行するように指導するとともに、国交省からの通達の別紙4「新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等を踏まえた工事及び業務の対応について：国土交通省不動産・建設経済局建設業課長」（令和3年4月25日）に従った対応も要請する。

2 豊島における感染防止の対応

豊島事業の遂行に当たっては、上記のように基本的に県ならびに国の通達等に従うが、本事業特有の事項については、以下のように対応する。

（1）豊島への移動での対応

県職員の豊島への移動は、別紙1の通勤時の対応に該当する。すなわち、公共交通機関（船舶）を利用する職員は、多くの人が集中する時間帯を避けるよう努めることとする。また豊島への移動は、可能な限り避け、電話やeメール、テレビ会議等に対応するように務める。

同様の対応を委託事業者や工事関係者、さらには運送事業者にも文書で求め、対処方を依頼する。

（2）豊島島内での移動等での対応

県職員の豊島島内での移動に当たっては、公用車を活用し、島民との接触を避ける方法で行うとともに、また豊島処分地以外の場所（例：商店）には訪問しないことを原則とする。

同様の対応を同じく委託事業者や工事関係者、さらには運送事業者にも文書で求め、対処方を依頼する。

（3）豊島事業に関係する各種会合への対応

県外関係者が参加する豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会ならびに同豊島処分地地下水・雨水対策等検討会、豊島事業関連施設の撤去等検討会、豊島廃棄物処理事業協議会については、別紙3の開催基準に従って対応するが、会議の運営上必要がある場合は、ウェブ会議を行うことができるものとする。

また、県内関係者のみの開催となる事務連絡会については、可能な限り電話やeメール、テレビ会議等に対応するように務め、集合開催とする場合には、参加人数の縮小、開催時間の短縮、着席間隔の拡大、室内の換気の実施、アルコール消毒やマスクの着用等咳エチケットの励行等の対策を行う。

(4) 豊島住民会議の現場視察への対応

豊島住民会議が行う現場視察には、別紙1の来客時の対応で対処する。すなわち、対面に当たってはアルコール消毒の実施、2m以上の間隔を空け、マスクを着用しての対応を行う。同様の対応を対面者にも求めることとする。

(5) 見学者への対応

見学者への対応については、全国の状況を注視しながら、別紙3に基づき人数制限により3密を回避し、体温計測、手指消毒、換気を徹底する等の感染症対策を講じた上で、受入れをしていく。

当面、上記のような対応を実施するが、状況が変化した場合には、それに合わせて内容を改め、フォローアップ委員会委員や関係者に通知する。

所属長 殿

統轄安全衛生管理者
(総務部長)新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた
職場における対応について (通知)

新型コロナウイルス感染症については、感染力が高いとされる変異株の感染拡大により、5月31日を期限として、東京都、大阪府など9都道府県に発令されていた「緊急事態宣言」が、沖縄県と同様6月20日まで期限が延長され、また、8県で「まん延防止等重点措置」が適用されていますが、5月31日が期限となっている埼玉県、岐阜県など5県への適用が6月20日まで期限が延長されました。

本県では、ゴールデンウィーク明けの5月6日には新規感染者数が50人、翌7日には78人と2日連続で過去最高を更新するなど、変異株による感染が急激に拡大したことから、5月8日、県独自の「香川県コロナ非常事態宣言」を発令するとともに、5月9日から31日まで「緊急事態対策期」に移行しました。その後の取組により、直近の新規感染者数はおよそ10人前後のレベルに減少しているものの、感染が拡大又は高止まりしている他の都道府県からの影響も危惧されるところであり、また、病床利用率など医療提供体制は依然として厳しい状況が続いていることから、6月1日から20日まで、「感染拡大防止集中対策期」に移行し、県独自の「医療ひっ迫警戒警報」を発令することとなりました。

感染拡大の抑制効果が期待されるワクチンの予防接種は、全国で高齢者のワクチン接種を7月末までに行うことを目標に懸命の努力がされていますが、まだ、一般の多くの方が接種を受けられる状況にはありません。

現状においては、このような最近の感染状況等を踏まえ、これまで取り組んできた職場等における感染防止対策について、より一層徹底することが必要です。

つきましては、令和2年12月8日付け2職員第50898号統轄安全衛生管理者通知「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた職場の対応について (通知)」を以下のとおり改正しますので、各所属においても、職場の実態に即して、適切に対応していただきますようお願いいたします。

※以下の下線部分：前通知からの改正部分

記

1 職場における感染予防対策について

- (1) 感染予防のための基本的な取組 (身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、咳エチケット、換気の励行、発熱等の症状がみられる職員の出勤自粛等) の実施を徹底すること。
- (2) ①～③の取組等を通じて、「三つの密」 (密閉空間 (換気の悪い密閉空間である)、密集場所 (多くの人が密集している)、密接場面 (お互いに手を伸ばしたら届く距離での

会話や発声が行われる)) を避けること。

①在宅勤務や早出・遅出勤務等により、人と人との接触機会を極力低減すること。

②出張等による移動を減らすためオンライン会議等を活用すること。

③換気を徹底し、職場でもお互いの距離を十分にとること。

(3) 感染リスクが高まる「5つの場面」における場面⑤「居場所の切り替わり」の際は、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。休憩室、喫煙所、更衣室、車やバスで移動する際の車中等は、注意が必要であること。

(4) 感染防止の取組は、職員一人一人が取組の趣旨を踏まえて、行動変容を含めて取り組むことが重要であることから、衛生委員会や各所属の会議等の機会を活用し、職員に周知を図ること。

(5) 職場の勤務状況や施設の状況は、各所属において、それぞれ異なることから、2 感染予防のための具体的な取組事項の内容を参考として、職場の実態に即した、実行可能な感染予防対策を検討し、取り組むこと。

その際、必要に応じて、産業医等に対策の検討や実施に当たっての意見を求めるとともに、衛生委員会等の意見を聞くこと。

2 感染予防のための具体的な取組事項

(1) 職場内での感染予防の徹底

①換気の徹底等

・ 必要換気量（一人当たり毎時30m³）を満たし「換気が悪い空間」としないために、職場の建物が機械換気（空気調和設備、機械換気設備）の場合、換気設備を適切に運転・管理し、ビル管理法令の空気環境の基準が満たされていることを確認すること。

※適切な換気により、二酸化炭素濃度が1000ppm以下となることが目安となること。

・ 本庁本館は、窓が開閉できず、機械換気を行っており、庁舎管理者により換気設備を適切に運転・管理することで、ビル管理法令の空気環境の基準を満たしているが、必要に応じて、外気導入装置（ペリカウンター）を開放すること。

・ 職場の建物の窓が開閉可能な場合は、1時間に2回以上（30分に1回以上、数分間程度、窓を全開する。）とすること。空気の流れを作るため、複数の窓がある場合、二方向の壁の窓を開放すること。窓が一つしかない場合は、ドアを開けること。

・ 夏季の留意事項

特に、気温・湿度が高い中でのマスクの着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあり、また、マスクを着用して強い負荷の作業や運動をすることも健康障害のリスクが高くなるとされている。そのため、そのような状況でマスクを着用する際は、のどが渇く前のこまめな水分補給等に留意する必要があること。感染症予防対策と熱中症予防対策が両立できるよう職場の実態に即して適切に対応すること。

・ 冬季の留意事項

室温が下がらない範囲で常時窓を開けること（例：窓を少し開け、室温18℃以上を目安とすること。）。必要に応じて、連続した部屋等を用いた2段階の換気（例：使用していない部屋の窓を大きく開ける）も検討すること。

②接触感染の防止

・ 石けんによるこまめな手洗いを徹底すること。これが困難な場合は、アルコール手指消毒剤を使用すること。

・ 執務室の出入口には、アルコール手指消毒剤を設置すること。

・ 複数人で共有する物品・機器等（※）やドアノブ、エレベータのボタン等については、アルコール手指消毒剤でこまめに消毒すること。

※電話、共用パソコン、プリンター、コピー機等

・ 来客等に対し、感染防止措置への協力（手指消毒剤による手指消毒及び必要に応じたマスク着用のお願い等）を要請すること。

- ・休憩室等を使用する際は、入退室の前後の手洗いを徹底すること。
- ・トイレに蓋がある場合は、蓋を閉めてから汚物を流すこと。
- ・鼻水、唾液等が付いたゴミは、ビニール袋に密閉し廃棄すること。

③飛沫感染の防止

- ・マスクを着用すること。
- ・大声で会話しないようにすること。
- ・咳エチケットを徹底すること。
- ・換気等の励行により風通しの悪い空間をなるべくつくりたくないなどの工夫をすること。
- ・職場においては、できる限り、人と人との間の十分な距離の保持（1m以上）し、会話や発声時には、特に間隔を空ける（2m以上）ことが望ましい。
- ・オンライン会議、電話、電子メール等の活用により、人が集まる形での会議等をできる限り回避すること。対面での会議等を実施する場合には、換気とマスク着用を徹底すること。
- ・外来者等との対面での接触を避けること。これが避けられない場合は、距離（2m以上）を取ることが望ましい。また、業務の性質上、対人距離等の確保が困難な場合は、換気とマスク着用を徹底すること。
- ・職場の状況に応じた、感染防止対策の工夫をすること。
例：来庁者との面談や受付事務等で距離を確保できない場合は、パーティションの設置など感染防止対策を検討すること。
- ・食堂、休憩室、リフレッシュルーム、トイレ、手洗い場等の利用に際しては、特に、「三つの密」（密閉空間、密集場所、密接場面）にならないよう留意すること。

④一般的な健康確保措置の徹底等

- ・疲労の蓄積（易感染性）につながることから、長時間の時間外勤務を避けること。あわせて、適切な勤務時間管理にも留意すること。
- ・職員一人一人が十分な栄養摂取と睡眠を心がけるなど健康管理を行うこと。
- ・職場において、職員の日々の健康状態の把握に配慮すること。（例えば、出勤前の体温測定を励行するとともに、体調がすぐれない場合は所属長に報告するよう指導する等）

(2) 通勤・出張に関する感染防止行動の徹底

①接触感染の防止

- ・出勤・帰宅時、飲食前の手洗いや手指のアルコール消毒を徹底すること。
- ・出張から帰庁した際は、手洗いや手指のアルコール消毒を徹底すること。

②飛沫感染の防止

- ・咳エチケットを徹底すること。
- ・通勤に公共交通機関を利用している職員は、他人にうつさない観点から、マスク着用をするとともに、可能な場合には、多くの人が集中する時間帯を避ける早出・遅出勤務を活用すること。
- ・出張の際は、公用車等の換気に留意すること。
- ・通勤や出張の際、電車、バス、タクシー等を利用する場合、不必要な会話等を抑制すること。
- ・出張による移動を減らすため、オンライン会議等を活用すること。

(3) 在宅勤務の活用等

新型コロナウイルス感染症予防の一環として、職場や通勤での感染防止のため、職場や職務の実態に即して在宅勤務の実施や年次休暇の取得促進を行うこと。

3 風邪症状を呈する職員への対応について

- ・症状からインフルエンザと新型コロナウイルス感染症を識別するのは難しいとされている。このため、発熱、咳などの風邪症状がみられる職員については、新型コロナウイルスに感染している可能性を考えて対応すること。

参照：人事・行革課のページ「勤務条件－休暇・休業－特別休暇
出勤時交通遮断休暇（新型コロナウイルス感染拡大防止関係）」

- ・特に、①高年齢職員、②基礎疾患（糖尿病、心不全、慢性呼吸器疾患、慢性腎臓病、高血圧症、がんなど）を有するなどの重症化リスク因子を持つ職員、③妊娠している職員について配慮すること。
- ・風邪症状がみられる職員への特別休暇の使用とともに、その間の外出自粛を勧奨すること。その際、職員が安心して休暇を取得できる体制を整えること。
- ・風邪の症状が出現した職員が医療機関を受診するため等、やむを得ず外出する場合でも、公共交通機関の利用は極力控えるよう注意喚起すること。
- ・発熱やのどの痛み、せきなどの風邪症状があり医療機関を受診する際は、事前にかかりつけ医等の身近な医療機関や「香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター」に電話相談をして、受診の可否や受診医療機関、受診に際しての留意事項を確認したうえで、マスク着用や手指消毒を徹底し、感染防止対策に十分に留意して受診するよう指導すること。

4 発熱などの症状のある方の相談・受診体制について（令和2年11月1日から）

令和2年11月から、発熱などの症状がある方の相談・受診体制が変わりました。

まずは、かかりつけ医等の地域で身近な医療機関に電話で相談ください。どこに相談すればよいか分からない場合は、香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンターに連絡をしてください。

○香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター

電話番号：0570-087-550（専用ナビダイヤル）

聴覚障害などで電話での相談が難しい方は、保健所の感染症相談窓口にてファクスでご相談ください。

相談日時：土曜日・日曜日・祝日を含む毎日24時間

相談内容

受診・相談センター

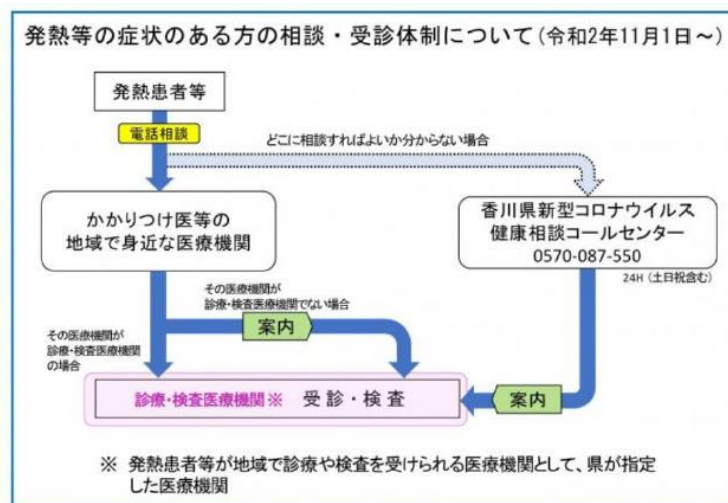
発熱などの症状のある方からの相談に対応します。

<新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安>

- ・息苦しさ、強いだるさ、高熱等の強い症状のいずれかのある場合
- ・基礎疾患がある方などの重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

一般相談

上記以外の新型コロナウイルス感染症に関する一般的な健康相談に対応します。



5 職員から所属長への報告

- 職員は、新型コロナウイルス感染症の陽性者又は濃厚接触者に該当した場合やPCR検査、抗原検査等を受診することになった場合は、速やかに所属長へ電話、メール等により報告すること。
- 各所属で、新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）等が発生した場合の対応については、以下の通知によること。

参照：職員課のページ様式ダウンロード－健康管理関係－通達・指針

令和2年12月8日付け2職員第50899号「県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）等が発生した場合の対応について（通知）」（統轄安全衛生管理者通知）

- 所属長は、事前に、所属の職員に対して、陽性者又は濃厚接触者になったことをもって、不利益な取扱いや差別を受けることはないことを説明しておくこと。例えば、新型コロナウイルスに感染したことを理由として、人格を否定するような言動を行うこと、一人の職員に対して同僚が集団で無視をし、職場で孤立させることなどは、職場におけるパワーハラスメントに該当する可能性があることに留意すること。

6 妊娠中の女性職員への配慮について

- 妊娠中の女性職員への配慮については、「妊娠中及び出産後の女性労働者が保健指導又は健康診査に基づく指導事項を守ることができるようにするために事業主が講ずべき措置に関する指針」（平成9年厚生労働省告示第105号）に則り、その雇用する妊娠中の女性労働者から、保健指導又は健康診断に基づき、当該女性労働者の作業等における新型コロナウイルス感染症に感染するおそれに関する心理的なストレスが母体又は胎児の健康保持に影響があるとして、医師等によりこれに関して指導を受けた旨の申出があった場合には、当該指導に基づき、作業の制限、出勤の制限（在宅勤務、妊娠障害休暇等をいう。以下同じ。）等の必要な措置を講じる必要があること。また、医師等による指導に基づく必要な措置が不明確である場合には、担当の医師等と連絡をとり、その判断を求める等により、作業の制限、出勤の制限等の必要な措置を講じる必要があること。

参照：https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11067.html

(問い合わせ先)

- | | | |
|---------------------|-----------|------------|
| ・建物の換気、消毒 | ：財産経営課 | 内線 2 7 1 1 |
| ・感染者発生時の報告 | ：人事・行革課 | 内線 2 5 8 2 |
| <u>勤務時間・休暇制度</u> | | |
| <u>在宅勤務</u> | | |
| <u>妊娠中の女性職員への配慮</u> | | |
| ・上記以外のこと | ：職員課健康管理室 | 内線 2 6 3 0 |

所属長 殿

統轄安全衛生管理者
(総務部長)県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）等が
発生した場合の対応について（通知）

県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）、濃厚接触者又はPCR検査受診者が発生した場合の対応については、令和2年4月8日付2職員第3828号「県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）が発生した場合の対応について（通知）」（統轄安全衛生管理者通知）で周知したところですが、11月に入り、全国的に感染の急増がみられ、都市部では医療提供体制が逼迫しつつある状況になるなど感染が拡大しており、本県においても新規感染者が連続して確認される状況となっていることから、今後、県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）、濃厚接触者又はPCR検査受診者等（抗原検査受診者を含む。）が発生した場合の対応については、下記のとおり対応することとしますので、所属の職員に周知していただきますようお願いいたします。

記

1 職員から所属長への報告

職員は、新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）、濃厚接触者又はPCR検査受診者等（以下「陽性者等」という。）に該当した場合は、速やかに所属長へ電話、メール等により報告すること。

また、所属長は、所属の職員に対して、陽性者等になったことをもって、不利益な取扱いや差別を受けることはないことを改めて説明すること。

2 所属長の対応（報告）

報告を受けた所属長は、速やかに人事・行革課長、健康福祉総務課長及び職員課健康管理室長にその旨を報告すること。

3 県庁内で新型コロナウイルス感染症の感染者（陽性者）が発生した場合の感染防止措置**(1) 感染者（陽性者）の発生確認後の対応**

- ① 執務室等の窓を全開にするなどして、換気を行うこと。
- ② 周囲の職員は、直ちにマスクを着用すること。
- ③ 報告（上記1及び2の対応）
- ④ （保健所の指示のもと）感染者が所属している執務室、トイレ等をアルコール手指消毒剤又は薄めた市販の家庭用塩素系漂白剤で消毒すること。
 - ・ 感染者が使用しているパソコンや机・椅子、共用物品・機器等（電話、共用パソコン、プリンター、コピー機等）の消毒は、アルコール手指消毒剤を使用して消毒すること。

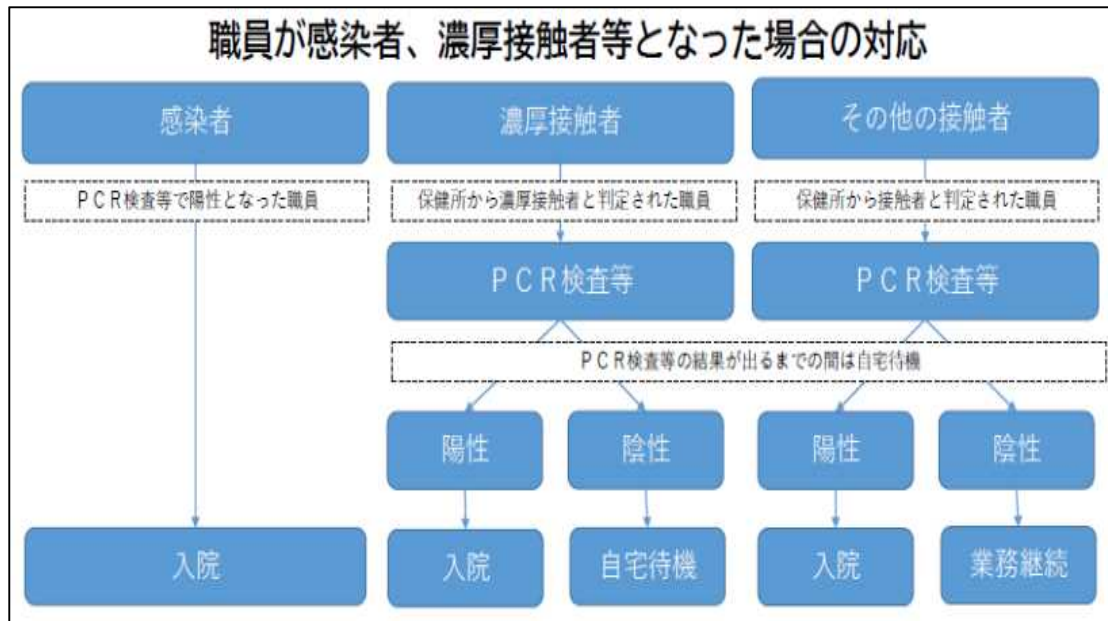
※ 消毒作業には、職員課健康管理室等の職員が立ち会う。

- ・ トイレ内の感染者が接触したと思われる箇所、執務室の床（絨毯部分を除く。）等については、薄めた市販の家庭用塩素系漂白剤で拭いた後、水拭きすること。家庭用塩素系漂白剤は、主成分が次亜塩素酸ナトリウムであることを確認の上、0.05%の濃度に薄めて使用すること。（詳細は、メーカーのホームページ等で確認すること）

- 濃度 0.05%：新型コロナウイルス対策として消毒する場合
1ℓのペットボトル1本の水に、原液 10mℓ（キャップ2杯）を入れる。

- 濃度 0.1%：おう吐物、ふん便などの汚れがある場合
1ℓのペットボトル1本の水に、原液 20mℓ（キャップ4杯）を入れる。

- (2) 保健所の感染経路の調査に協力すること。
- (3) PCR検査等で陽性となった職員は、感染者として療養（入院又は宿泊療養施設で療養）する。（勤務は特別休暇）
- (4) 保健所の積極的疫学調査により濃厚接触者となった職員は、PCR検査等を受診することとなる。
 - ・ PCR検査等の結果が判明するまでの間は自宅待機となる。（勤務は特別休暇）
 - ・ 濃厚接触者となった職員は、PCR検査等で陰性となった場合でも、感染者との最終接触日から14日間は自宅待機（健康観察）となる。（勤務は特別休暇）健康観察で問題がなければ、所属長へその旨を報告し職場復帰する。
 - ・ 自宅待機（健康観察）の間は、以下のことに注意すること。
 - 不要不急の外出は控え、公共交通機関の利用は避けること。
 - 外出時や同居者と接触する場合は、マスクを着用し、手洗いなど手指衛生に気を付けること。
 - マスクを触った後は、必ず手洗いをするなど手指衛生に気を付けること。
 - 健康状態を毎日確認すること。体温測定を定期的に1日2回行い、発熱の有無を確認すること。
 - 発熱又は呼吸器症状等が出れば、医療機関を受診する前に、指示を受けた保健所へ連絡し、指示を受けること。PCR検査等を行うことになった場合は、所属長へ報告すること。
 - ※ 所属長は、人事・行革課長、健康福祉総務課長及び職員課健康管理室長へ報告すること。
- (5) 保健所の積極的疫学調査によりその他の接触者（濃厚接触者には該当しないが、念のためにPCR検査等を受ける者。同じ所属の職員など、感染者と比較的近距离で過ごした者。）とされた職員は、PCR検査等を受診することとなる。
 - ・ PCR検査等の結果が判明するまでの間は自宅待機となる。（勤務は特別休暇）
 - ・ その他の接触者となった職員は、PCR検査等で陰性となった場合は、健康観察をしながら、職場又は在宅勤務で業務に従事する。（健康観察の期間は、感染者との最終接触日から14日間）
 - ・ 自宅待機（健康観察）の間の注意事項は（4）と同様



- (問い合わせ先)
- ・感染者発生時の報告：人事・行革課 内線 2 5 8 2
 - ・感染防止対策一般：職員課健康管理室 内線 2 6 3 0
 - ・建物の消毒：財産経営課 内線 2 7 1 1

催物（イベント等）の開催制限の段階的緩和の当面の方針について

令和2年 9月15日

令和3年4月30日改正

令和2年11月17日改正

令和3年6月28日改正

令和3年 3月 1日改正

催物開催の目安 下記の①人数上限及び②収容率要件による人数のいずれか小さい方を限度とする。(当面8月末まで)

① 人数上限の目安

適切な感染防止対策に留意し、開催制限の緩和を適用する場合の条件（「催物（イベント等）の開催にあたっての留意事項について」**別添 11**）が担保されている場合

5,000人又は収容定員の50%のいずれか大きい方

(つまり収容定員が1万人以下の会場は5,000人、1万人超の会場は収容定員の50%が上限となる)

開催制限の緩和を適用する場合の条件が担保されていない場合は、中止も含めて慎重に検討すること

② 収容率の目安

		参加者が大声での歓声、声援等を発し、または歌唱すること等がない催物（※1）	参加者が大声での歓声、声援等を発し、又は歌唱すること等が想定されるもの催物
参加者の位置が固定され、入退場や区域内の適切な行動確保（※2）ができる催物		収容定員までの参加人数	原則として収容定員の50%までの参加人数 異なるグループ間又は個人間では座席を一つ空けることとしつつ、同一グループ内（5名以内）では座席等の間隔を設ける必要はない（参加人数は収容定員の50%を超えることもありうる）。
参加者が自由に移動できるものの、入退場や区域内の適切な行動確保ができる催物	収容定員が設定されている場合	収容定員までの参加人数	収容定員の50%までの参加人数
	収容定員が設定されていない場合	密が発生しない程度の間隔（最低限人と人が接触しない程度の間隔）を空けること	十分な人と人との間隔（1m）を空けること

※1）これまでの当該イベントの出演者等による類似のイベントの開催実績において、参加者が歓声、声援等を発し、又は歌唱する等の実態がみられていないこと（開催実績がない場合、類似の出演者によるこれまでのイベントに照らし、観客が歓声、声援等を発し、又は歌唱することが見込まれないもの）。

※2）マスクの着用を含め、個別の参加者に対して感染防止対策（**別添 11**）の徹底が行われること。また、演者と観客間の距離が適切に保たれている等、感染防止対策が業種ごとに策定された感染拡大防止ガイドラインに盛り込まれ、それに則った感染防止対策が実施されること。

催物の類型ごとの整理

イベントの性質	いずれも適切な感染防止対策を講じ、入退場や区域内の適切な行動確保ができるもの				全国的又は広域的な人の移動が見込まれるものや参加者の把握が困難なもの
座席等	参加者の位置が固定されているもの		参加者が自由に移動できるもの		
参加者の大声での歓声・声援の想定	参加者の大声での歓声・声援等がないことを前提としうるもの	参加者の大声での歓声・声援等が想定されるもの	参加者の大声での歓声・声援等がないことを前提としうるもの	参加者の大声での歓声・声援等が想定されるもの	
イベントの例 (詳細は次頁を参考にしたい)	・クラシック音楽コンサート、演劇、舞踏、伝統芸能、芸能・演芸、講演・式典等 ・飲食を伴うが、発声がないもの(※1)	・ロック・ポップコンサート等 ・スポーツイベント、公営競技、公演、ライブハウス、ナイトクラブでのイベント等	展示会等	地域の祭り・行事等	花火大会、野外フェスティバル等
収容定員1万人以下	5,000人以内	5,000人以内かつ収容定員の50%以内(※2)	5,000人以内	5,000人以内かつ収容定員の50%以内	引き続き、中止を含めて慎重に検討すること(開催する場合には、入退場や区域内において、十分な人と人との間隔(1m)を設けるなど適切な行動を確保することとし、当該間隔の維持が困難な場合は、開催について慎重に検討すること)(※3)
収容定員1万人超	収容定員の50%以内	収容定員の50%以内	収容定員の50%以内	収容定員の50%以内	
収容定員が設定されていない場合	—	—	密が発生しない程度の間隔(最低限人と人が接触しない程度の間隔)を空けること	十分な人と人との間隔(1m)を空けること	
その他 (誘客施設等への適用)	映画館等	遊園地(絶叫系アトラクション)等	美術館、博物館、動植物園、水族館、遊園地等	—	

※1) 飲食を伴うが、発声がない場合における感染防止策

具体的な条件（感染防止策）	
食事時以外のマスク着用厳守	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場時に着用を確認し、必要に応じマスクの配布、販売を実施すること ・ イベント前に食事時以外のマスク着用徹底を動画上映・アナウンス等で周知すること ・ イベント中の適切な監視体制を構築し、確実なマスク着用を求めること ・ 着用状況を踏まえ、必要に応じ一層の周知を図る
発声が想定される場合の飲食禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、映画の場合は、発声が想定される場面（例：上映前後・休憩中のシアター内等）での飲食禁止 ・ その他の催物についても、上記の要件に照らし、会話の有無を判断し、会話があり得る場面では飲食禁止を徹底
十分な換気	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化炭素濃度 1000ppm 以下かつ二酸化炭素濃度測定機器等で当該基準を遵守していることが確認できること、または機械換気設備による換気量が 30 m³/時/人以上に設定されており、かつ、当該換気量が実際に確保されていること（野外的場合は確認を要しない）
連絡先の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）導入に向けた具体的措置の徹底 ※アプリのQRコードを入口に掲示すること等
食事時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間の飲食が想定される場合は、マスクを外す時間をなるべく短くするため、食事時間短縮のための措置を講ずるよう努めること

※2) 異なるグループ間又は個人間では座席を一つ空けることとしつつ、同一グループ内（5名以内）では座席等の間隔を設ける必要はない（参加人数は収容定員の50%を超えることもありうる）。

※3) 「十分な人と人との間隔（1m）」が設けられ、かつ、「当該間隔の維持」が可能となる場合の感染防止策

具体的な条件（感染防止策）	
身体的距離の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動時の適切な対人距離の確保（誘導人員の配置等） ・ 区画あたりの人数制限、ビニールシート等を用いた適切な対人距離の確保
密集の回避	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定点カメラ・デジタル技術等による混雑状況のモニタリング・発信 ・ 誘導人員の配置 ・ 時差・分散措置を講じた入退場
飲食制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限 ・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底 ・ 過度な飲酒の自粛
大声を出さないことの担保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大声を出す者がいた場合、個別に注意等ができるもの
催物前後の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント前後の感染防止の注意喚起 * 可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により分散利用を促進
連絡先の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）導入に向けた具体的措置の徹底 ※アプリのQRコードを入口に掲示すること等

(参考) 各種イベントにおける大声での歓声・声援等がないことを前提としうる／想定されるものの例

大声での歓声・声援等がないことを前提としうるものの例	大声での歓声・声援等が想定されるものの例
音楽	音楽
クラシック音楽（交響曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、器楽曲、声楽曲等）、歌劇、楽劇、合唱、ジャズ、吹奏楽、民族音楽、歌謡曲等のコンサート	ロックコンサート、ポップコンサート 等
演劇等	スポーツイベント
現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル、読み聞かせ、手話パフォーマンス 等	サッカー、野球、バスケットボール 等
舞踊	公営競技
バレエ、現代舞踊、民族舞踊 等	競馬、競輪、競艇
伝統芸能	公演
雅楽、能楽、文楽・人形浄瑠璃、歌舞伎、組踊、邦舞 等	キャラクターショー、親子会公演 等
芸能・演芸	ライブハウス・ナイトクラブ
講談、落語、浪曲、漫談、漫才、奇術 等	ライブハウス・ナイトクラブにおける各種イベント
公演・式典	※遊園地（いわゆる絶叫系のアトラクション）についても同様の考え方を適用
各種講演会、説明会、ワークショップ、各種教室、行政主催イベント、タウンミーティング、入学式・卒業式、成人式、入社式 等	
展示会	
各種展示会、商談会、各種ショー	
※映画館、美術館、博物館、動植物園、水族館、遊園地等についても同様の考え方を適用	

(注)・上記は例示であり、実際のイベントが上のいずれに該当するかについては、大声での歓声・声援等が想定されるか否かを個別具体的に判断する必要がある。

- ・食事を伴うイベントについては、「大声での歓声、声援等がないことを前提としうるもの」には該当しないものとして取り扱うこととするが、飲食を伴うがイベント中の発声がないことを前提としうる催物について、**別添10**の※1)が全て担保される場合に限り、イベント中の飲食を伴っても「大声での歓声、声援等がないことを前提としうるもの」として取り扱うことができることとする。

国不入企第3号
令和3年4月25日

各都道府県入札契約担当部局長 殿
各指定都市入札契約担当部局長 殿

国土交通省不動産・建設経済局建設業課長
(公 印 省 略)

新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等を踏まえた
工事及び業務の対応について

施工中の工事及び業務における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置等につきましては、「新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止等重点措置を実施すべき区域の変更（令和3年4月16日）に伴う工事及び業務の対応について」（令和3年4月20日付け事務連絡）等により、適切な対応をお願いしてきたところです。

このたび、令和3年4月23日に、1都2府1県（東京都、京都府、大阪府、兵庫県）を対象として、政府対策本部長より新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が行われたところです。新型コロナウイルス感染症への対策について、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年3月28日（令和3年4月23日変更））（以下「基本的対処方針」という。）においては、「三つの密」を徹底的に避け、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」等の基本的な感染対策を行うことをより一層推進することなどが重要であるとされており、新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針として、感染拡大を予防する「新しい生活様式」の定着や「感染リスクが高まる「5つの場面」」を回避すること等を促すとともに、事業者及び関係団体に対して、業種別ガイドライン等の実践を促していくこととされています。また、基本的対処方針においては、引き続き、社会の安定の維持の観点から、緊急事態措置の期間中にも、河川や道路などの公物管理や公共工事など、安全安心に必要な社会基盤に係る事業者については最低限の事業継続が要請されているところです。これらのことを踏まえ、施工中の工事等における感染拡大防止措置等につきましては、引き続き、アルコール消毒液の設置や不特定の者が触れる箇所での定期的な消毒、現場でのマスク着用、手洗い、換気、「居場所の切り替わり」への注意など、感染予防の対応を行うとともに、施工に伴う三つの密の発生の回避や影響緩和の対策が講じられるよう、改めて、受注者に対して「建設業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（令和2年5月14日（令和2年1

2月24日改訂版))」及び内閣官房の新型コロナウイルス感染症対策ホームページにおいて公表されている業種ごとの感染拡大予防ガイドライン等の周知徹底を図るなど、適切なお対応を宜しくお願いします。

なお、今般の緊急事態宣言に伴い、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づくまん延防止等重点措置の対象から、東京都、京都府、大阪府、兵庫県が除かれるとともに、愛媛県が新たにまん延防止等重点措置の対象とされたことにより、7県がまん延防止等重点措置の対象となったところですが、緊急事態宣言を踏まえた上記の対応と同様に、引き続き適切なお対応を宜しくお願いします。

また、「三つの密」対策等の更なる徹底や、感染リスクが高い場면을回避する対策の実効性を高めるための環境づくり等について、別添1、2のとおり建設業者団体宛に送付しておりますので、ご参考にお知らせします。

なお、これまでも、新型コロナウイルスの罹患等により現場の施工を継続することが困難となった場合の他、受注者から工期延長等の申し出があった場合で必要があると認められるときにおける工期の見直し及びこれに伴い必要となる請負代金額の変更や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じた場合に要した費用の上乗せ等の柔軟な契約変更等を周知してきたところですが、引き続き、遺漏なきよう宜しくお願いいたします。

併せて、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置を踏まえた、国土交通省直轄事業における対応について、別添3、4のとおり定めておりますので、ご参考にお知らせします。

各都道府県におかれては、貴都道府県内の関係市町村（指定都市を除く。）に対しても、周知を宜しくお願いします。

現場見学者対応に関する新型コロナウイルス感染症対策

2020.5.19

廃棄物対策豊島住民会議

- ・当面の間、三密を避けるために、見学者数に定員を設ける。
ワゴン車利用の場合、4名以下。マイクロバス利用の場合、12名以下とする。
特定警戒区域からの見学者は原則として受け入れない。
- ・見学者には事前に全員の名簿（住所、氏名、連絡先）を提出することを義務付ける。
見学後、2週間以内に感染が確認された場合には、速やかに連絡していただくように依頼する。
- ・見学者には、当日、体温を検温し、発熱のある場合は、辞退していただく。
- ・見学者、案内者はワゴン、マイクロバス乗車時には、手指の消毒を行い、乗車する。
- ・ワゴン、マイクロバス使用後は、必ず、座席シート、ドアノブ等の消毒を行う。
- ・見学者乗車時には、ワゴン、マイクロバスの窓を開け、換気を心がける。
- ・心の資料館見学時は、入館時に手指の消毒を行い、入館する。資料館の窓、扉を開け、換気を怠らない。
- ・心の資料館内で、見学者が展示物に触れないように指示する。触れた場合は、見学後、消毒する。見学後は、扉のノブ等は消毒する。
- ・見学中に、発熱等の症状が出た場合には、診療所の医師または小豆島保健所（小豆総合事務所）に連絡し、指示を受ける。

環境計測及び周辺環境モニタリングの結果

1. 環境計測

(1) 豊島における環境計測（地下水調査）の結果……………令和3年2月調査

- ・観測井3地点全てにおいて、これまでの調査結果と特段の差異は見られなかった。

(2) 豊島における環境計測（北揚水井、高度排水処理施設）の結果

……………令和3年2月、5月調査

- ・北揚水井は、化学的酸素要求量（COD）が管理基準を満たさなかった。
- ・高度排水処理施設の処理水は、検査を行った全ての項目について管理基準を満足していた。

(3) 豊島における環境計測（沈砂池）の結果……………令和3年6月調査

- ・検査を行った全ての項目について、管理基準を満足していた。

豊島における環境計測（地下水調査）の結果

浄化処理の進捗に伴う水質の推移を把握するため、地下水の環境計測を実施している。今回、令和3年2月に実施した水質調査結果をとりまとめた。

1 調査の概要

(1) 調査日

令和3年2月10日（水）

(2) 調査地点（調査地点図参照）

観測井 3地点（A3、B5、F1西）

(3) 検体採取機関及び分析機関

採取機関：廃棄物対策課、環境保健研究センター

分析機関：環境保健研究センター

2 調査結果の概要（表1～3）

- ・ 観測井3地点全てにおいて、これまでの調査結果と比較して特段の差異は見られなかった。
- ・ それぞれの観測井において、次の項目が環境基準を満足しなかった。
 - B5 : 砒素、ほう素、1,4-ジオキサン
 - F1西 : 砒素、ほう素

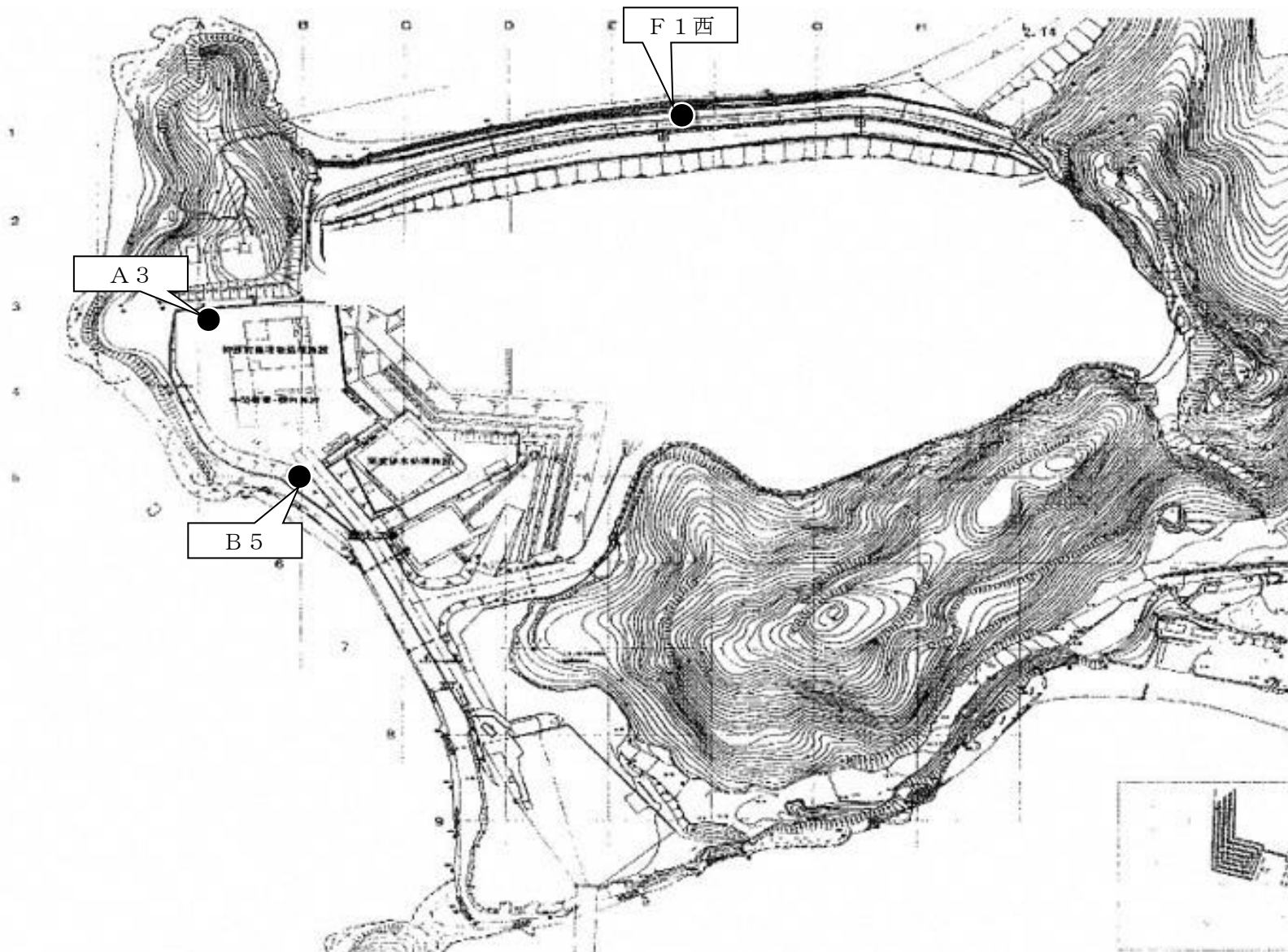


図 豊島における環境計測（地下水調査）調査地点

表1 地下水調査結果（A3地点の推移）

調査地点		A3																									地下水の環境基準	検出下限	
調査年月日	H15.2.6	H16.2.5	H17.2.7	H18.2.28	H19.2.1	H20.2.13	H21.2.17	H22.2.16	H23.2.9	H23.6.14	H23.8.3	H23.11.22	H24.2.1	H24.5.16	H24.8.1	H24.11.19	H25.2.5	H25.5.22	H25.7.29	H25.11.13	H26.3.17	H26.5.13	H26.7.29	H26.11.25	H27.2.16				
一般項目	pH	7.0	7.1	6.9	7.1	7.0	6.8	7.0	7.2	6.9	6.8	6.7	6.7	6.9	6.6	6.8	6.9	6.9	6.8	6.8	6.6	9.8	11.4	7.0	7.0	7.0	-	-	
	BOD	7.5	12	0.8	4.3	0.7	0.9	ND	1.4	1.0	ND	1.0	1.0	0.8	ND	ND	0.8	1.3	1.3	ND	ND	1.0	ND	ND	1.3	22	-	0.5	
	COD	32	70	17	18	10	21	3.1	3.7	5.7	5.6	3.7	5.1	3.8	7.0	5.0	4.1	3.4	7.9	3.5	4.2	8.4	7.2	5.2	6.3	49	-	0.5	
	大腸菌群数	13	33	33	7.8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	7.8	ND	ND	11	13	ND	350	2	7.8	ND	ND	280	11	ND	-	-	
	油分	0.6	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.7	1.1	0.6	ND	0.8	ND	-	0.5	
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003	
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	
	有機燐	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.1	
	鉛	ND	0.1	0.015	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.008	ND	ND	0.008	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05
	砒素	0.56	0.73	0.40	1.1	0.42	0.59	0.31	1.6	1.2	0.26	0.55	0.50	0.70	1.0	0.54	0.27	0.13	0.090	0.21	0.56	0.49	0.26	0.16	0.22	0.68	0.01	0.005	
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	クロロエチレン ^(注8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.0034	0.0063	0.0044	0.0090	0.0040	0.017	0.0023	0.0034	0.0035	0.0032	ND	ND	0.0022	0.0018	0.012	0.018	0.002	0.0002	
	1,2-ジクロロエタン	0.21	0.018	0.029	0.018	0.0091	0.0082	0.0053	0.0019	0.0007	0.0066	0.010	0.0060	0.0032	0.0057	0.0079	0.0045	0.0036	0.0033	0.0037	0.0050	0.0020	0.0031	0.0010	0.016	0.0072	0.004	0.0004	
	1,1-ジクロロエチレン	0.054	0.009	0.011	0.004	0.003	ND	ND	ND	0.005	0.007	0.011	0.004	0.002	0.003	0.002	0.004	ND	ND	0.002	0.002	ND	ND	0.005	ND	0.008	0.1 ^(注4)	0.002	
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	1.7	0.32	0.33	0.11	0.071	0.047	0.033	0.022	0.047	0.046	0.032	0.030	0.037	0.021	0.024	0.022	0.019	0.010	0.022	0.015	ND	0.022	0.054	0.12	0.056	0.04	0.004	
	1,1,1-トリクロロエタン	0.21	0.023	0.025	0.011	0.007	0.0036	0.0018	0.0011	0.0072	0.011	0.023	0.0096	0.0029	0.0039	0.0083	0.0025	0.0019	0.0011	0.0055	0.0049	ND	0.0021	0.016	0.041	0.011	1	0.0005	
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	0.0007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	0.15	0.010	0.017	0.022	0.019	0.011	0.006	0.007	0.042	0.043	0.066	0.027	0.016	0.021	0.033	0.0026	0.010	0.007	0.020	0.015	0.002	0.016	0.033	0.098	0.058	0.01 ^(注7)	0.001	
	テトラクロロエチレン	0.022	0.011	0.034	0.0027	0.0012	0.0014	ND	0.0006	0.0007	0.0057	0.081	0.014	0.0007	0.0014	0.0013	0.0014	0.0007	ND	0.0006	0.0007	ND	ND	0.0020	0.0053	0.0059	0.01	0.0005	
	1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	ベンゼン	0.053	0.012	0.012	0.005	0.002	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	ND	ND	ND	0.059	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.01	0.001
	セレン	ND	ND	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.0	ND	ND	ND	ND	0.8	0.8
ホウ素	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.5	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	ND	0.1	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	1	0.1		
1,4-ジオキサン	—	—	—	—	—	—	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	ND	0.05	0.005		
その他の項目	全窒素	4	3	1.6	3	1	1	1	5	3	1	1	1	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	-	1	
	全燐	0.5	ND	0.2	1.0	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	ND	0.2	ND	ND	0.1	0.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.4	-	0.1	
	塩化物イオン	68	39	28	23	37	29	24	28	21	25	31	30	32	20	33	31	33	41	38	40	48	57	53	54	50	-	1	
	電気伝導率	51.3	40	32	29.5	14.6	16.1	16.2	15	16	32.7	30	28	30.8	30.8	32	30	30	32	30	31	32	87	41	50	44	-	0.1	
	ニッケル	ND	0.08	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.05
	モリブデン	ND	ND	0.016	ND	ND	0.008	0.026	0.022	ND	ND	0.028	0.030	0.038	0.022	ND	0.008	0.044	0.016	0.013	0.019	0.12	0.098	0.023	0.007	0.049	-	0.007	
アンチモン	ND	0.002	0.005	0.002	0.002	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	ND	ND	0.001	ND	ND	0.001	ND	0.004	ND	ND	ND	0.002	-	0.001		
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	0.015	ND	ND	0.046	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.006	

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(MPN/100mL)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成21年11月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。(平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。)

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成23年10月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成26年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。)

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。(平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。)

表1 地下水調査結果（A3地点の推移）

調査地点		A3																				地下水の環境基準	検出下限				
調査年月日	H27.5.19	H27.9.17	H27.11.24	H28.2.9	H28.5.24	H28.7.26	H28.11.8	H29.1.30	H29.5.23	H29.7.26	H29.11.29	H30.2.14	H30.6.26	H30.9.3	H30.10.30	H31.2.27	R1.5.21	R1.8.27	R1.11.19	R2.2.5	R2.8.5	R3.2.10					
一般項目	pH	6.8	7.5	7.0	6.8	6.7	7.8	7.1	7.5	7.1	6.8	7.2	7.2	6.7	6.8	6.7	7.1	6.7	6.7	6.9	6.8	7.3	7.7	-	-		
	BOD	0.8	0.6	ND	1.4	0.6	1.8	1.8	0.5	1.4	2.7	2.9	3.0	2.3	1.2	3.6	2.3	1.7	1.7	1.4	ND	1.1	1.5	-	0.5		
	COD	11	6.5	5.6	5.7	5.0	6.7	5.1	9.0	7.5	4.3	4.6	5.2	5.0	4.6	5.1	3.5	4.2	4.7	5.8	3.9	4.1	3.5	-	0.5		
	大腸菌群数	ND	23	ND	7.8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	49	2	ND	6.8	33	ND	ND	1100	23	33	-	-	-	-		
	油分	ND	ND	0.8	ND	ND	ND	0.6	0.9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	ND	ND	-	0.5		
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003		
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.1	
	有機燐	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.1	
	鉛	ND	ND	ND	ND	0.010	0.014	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005		
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.05	0.05	
	砒素	29	0.64	0.38	0.45	1.1	7.6	0.20	0.47	3.9	0.38	1.2	2.2	0.12	0.28	0.58	0.093	0.46	0.90	2.1	0.60	ND	0.010	0.01	0.005		
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.0005	0.0005	
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.0005	
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.0005	
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002	
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	クロロエチレン ^(注8)	0.0059	0.017	0.0061	0.0076	0.0052	0.0054	0.0056	0.0014	0.012	0.0052	0.0045	0.0030	0.0032	0.0032	0.0031	0.0052	0.0032	0.0025	ND	0.0026	ND	ND	0.002	0.0002		
	1,2-ジクロロエタン	0.016	0.0062	0.0083	0.0097	0.0094	0.015	0.0070	0.0035	0.0083	0.012	0.0090	0.0064	0.0071	0.0069	0.0065	0.0058	0.0059	0.0053	ND	0.0046	ND	ND	0.004	0.0004		
	1,1-ジクロロエチレン	0.010	0.002	0.002	0.006	0.008	0.013	0.004	0.002	0.002	0.010	0.005	0.002	ND	0.004	0.003	0.003	ND	ND	ND	0.002	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002		
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	0.082	0.046	0.034	0.027	0.029	0.037	0.020	0.011	0.021	0.033	0.021	0.014	ND	0.020	0.017	0.014	0.016	0.011	ND	0.010	ND	ND	0.04	0.004		
	1,1,1-トリクロロエタン	0.029	0.010	0.010	0.017	0.030	0.049	0.014	0.0087	0.011	0.026	0.017	0.0095	ND	0.015	0.013	0.012	0.010	0.0071	ND	0.0088	ND	ND	1	0.0005		
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006	
	トリクロロエチレン	0.091	0.062	0.049	0.078	0.10	0.15	0.065	0.039	0.059	0.063	0.066	0.044	0.056	0.070	0.061	ND	0.040	0.031	ND	0.027	ND	0.001	0.01 ^(注7)	0.001		
	テトラクロロエチレン	0.0092	0.0015	0.0028	0.0026	0.0034	0.0044	0.0017	0.0007	0.0013	0.0038	0.0023	0.0013	0.0020	0.0023	0.0018	0.0011	0.0020	0.0010	ND	0.0023	ND	ND	0.01	0.0005		
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.003	0.0003
	チオベンソカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.02	0.002
	ベンゼン	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	0.01	0.001	
	セレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.8	0.8
ホウ素	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	1.1	0.5	1	0.1		
1,4-ジオキサン	0.008	0.017	0.005	ND	0.005	0.005	ND	ND	ND	0.009	0.005	ND	0.005	0.005	0.005	0.006	0.005	0.005	ND	ND	ND	ND	0.05	0.005			
その他の項目	全窒素	2	2	1	1	1	2	2	5	2	1	1	1	1	1	1	1	1	ND	ND	1	19	10	-	1		
	全燐	0.4	ND	ND	ND	ND	0.9	ND	ND	0.4	0.1	0.1	0.1	ND	ND	ND	1.7	0.4	0.4	0.9	ND	ND	ND	-	0.1		
	塩化物イオン	46	61	49	48	47	50	33	37	70	33	32	32	34	54	52	37	62	30	19	32	21	46	-	1		
	電気伝導率	31	53	41	39	38	38	34	40	48	37	44	46	37	26	47	28	22	27	170	48	40	560	-	0.1		
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.05	
	モリブデン	ND	0.009	ND	0.010	ND	ND	ND	ND	0.032	0.014	0.022	0.015	ND	0.012	0.012	0.012	0.016	0.010	0.011	0.013	ND	0.007	-	0.007		
アンチモン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.001		
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.006		

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(MPN/100mL)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成21年11月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。(平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。)

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成23年10月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成26年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。)

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。(平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。)

表2 地下水調査結果（B5地点の推移）

調査地点		B5																									地下水の環境基準	検出下限
調査年月日		H12.12.4	H13.3.6	H17.2.7	H18.2.28	H19.2.1	H20.2.13	H21.2.17	H22.2.16	H23.2.9	H23.6.14	H23.8.3	H23.11.22	H24.2.1	H24.5.16	H24.8.1	H24.11.19	H25.2.5	H25.5.22	H25.7.29	H25.11.13	H26.3.4	H26.5.13	H26.7.29	H26.11.25	H27.2.16		
一般項目	pH	6.3	6.4	6.6	7.1	6.8	6.9	6.7	7.0	6.5	6.8	6.5	6.5	6.6	6.7	6.6	6.7	6.7	6.7	6.6	6.7	6.8	6.6	6.7	6.6	6.9	-	-
	BOD	120	55	50	44	43	41	36	29	21	33	43	24	27	15	34	13	4.2	12	10	8	16	13	3.2	6.2	17	-	0.5
	COD	530	300	370	300	310	220	240	420	300	223	240	210	260	160	204	186	179	194	228	215	120	200	100	130	100	-	0.5
	大腸菌群数	3.5×10 ²	2.4×10 ²	ND	ND	17	ND	2.0	ND	2.0	ND	23	ND	ND	ND	ND	49	ND	2.0	790	2.0	350	1700	33	49	59	-	-
	油分	2.9	4.1	8.9	5.6	4.5	5.5	5.2	4.3	6.1	8.2	5.8	5.4	4.6	4.6	5.2	4.2	3.4	7.0	10	8.6	11	7.6	6.2	8.9	4.7	-	0.5
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0003	ND	0.0003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003	
	全シアン	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.1	
	有機燐	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.1	
	鉛	0.018	0.048	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	ND	0.01	0.005
	六価クロム	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05	
	砒素	0.047	0.022	ND	0.008	0.013	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.017	ND	0.011	0.007	ND	ND	0.006	ND	0.006	ND	ND	ND	0.01	0.005
	総水銀	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005
	アルキル水銀	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005
	PCB	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005
	ジクロロメタン	0.085	0.039	0.018	0.006	0.003	0.002	0.003	ND	0.004	0.004	ND	0.004	0.005	0.004	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	ND	ND	0.007	ND	ND	0.02	0.002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	クロロエチレン ^(注8)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	1,2-ジクロロエタン	0.0017	0.0014	ND	ND	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	ND	0.0004	0.0005	ND	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01 ^(注7)	0.001
	テトラクロロエチレン	0.0016	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.0005
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001
	シマジン	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003
	チオベンカルブ	ND	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	ベンゼン	0.22	0.19	0.042	0.014	0.003	0.002	0.006	0.002	0.025	0.020	0.025	0.020	0.022	0.016	0.015	0.013	0.009	0.010	0.013	0.004	0.010	0.030	0.014	0.018	0.007	0.01	0.001
	セレン	ND	-	0.011	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.26	1.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10	
フッ素	ND	ND	4.2	5.0	3.6	3.0	2.0	1.3	ND	2.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.2	1.3	1.2	1.4	1.1	0.9	1.4	1.8	0.8	0.8	ND	0.8	0.8	
砒素	2.1	2.6	3.0	3.1	3.1	2.6	3.0	2.5	2.5	2.6	2.6	4.9	2.8	2.6	2.7	2.6	2.5	2.2	2.6	2.7	2.5	2.0	2.3	2.0	2.0	1	0.1	
1,4-ジオキサン	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3	5.1	5.6	5.1	5.2	3.5	4.5	4.1	3.5	3.5	4.1	3.1	3.3	3.6	2.3	2.3	1.6	0.05	0.005	
その他の項目	全窒素	14	14	12	10	37	30	31	45	8	9	38	34	28	34	24	17	17	15	18	4	ND	12	3	8	3	-	1
	全燐	0.1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.1
	塩化物イオン	2,300	1,840	2,000	1,520	1,550	1,330	1,470	1,400	1,400	1,400	1,480	1,390	1,330	1,180	1,120	1,080	944	943	1,020	690	704	901	603	967	585	-	1
	電気伝導率	635	462	694	542	478	314	274	280	560	502	517	523	502	432	467	399	413	400	354	339	320	403	272	336	249	-	0.1
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.018	0.009	ND	ND	ND	ND	-
アンチモン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.001	
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	0.020	ND	ND	ND	ND	0.010	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.006	

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(MPN/100mL)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成21年11月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。(平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。)

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成23年10月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成26年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。)

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。(平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。)

表2 地下水調査結果（B5地点の推移）

調査地点		B5																				地下水の環境基準	検出下限		
調査年月日	H27.5.19	H27.7.27	H28.2.9	H28.5.24	H28.7.26	H28.11.8	H29.1.31	H29.5.23	H29.7.26	H29.11.29	H30.2.13	H30.6.26	H30.9.3	H30.10.30	H31.2.27	R1.5.21	R1.8.27	R1.11.19	R2.2.5	R2.8.5	R3.2.10				
一般項目	pH	6.4	6.6	6.8	6.8	6.9	6.8	7.0	6.6	6.6	6.8	6.7	6.8	6.8	6.8	6.7	6.8	6.6	6.0	6.9	6.6	6.8	-	-	
	BOD	12	23	24	20	14	8.9	22	16	17	6	5.8	6.4	7.1	11	21	7.8	15	2.7	21	2.6	16	-	0.5	
	COD	110	58	65	67	69	74	92	77	60	57	61	72	64	75	66	62	62	5.6	66	43	46	-	0.5	
	大腸菌群数	170	ND	ND	ND	4.0	11	ND	ND	4.5	ND	ND	790	22	23	ND	ND	1700	ND	4.5	-	-	-	-	
	油分	5.9	3.1	4.0	5.7	4.4	4.9	5.8	3.8	4.6	2.9	1.8	3.4	3.5	5.4	3.0	4.9	3.2	3.4	3.7	ND	ND	-	0.5	
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0009	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003		
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.1	
	有機磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.1	
	鉛	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.015	ND	ND	ND	0.01	0.005	
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.05	0.05	
	砒素	0.009	ND	ND	0.007	0.006	0.006	ND	0.008	<u>0.011</u>	0.009	<u>0.013</u>	<u>0.011</u>	0.007	0.011	0.008	0.009	<u>0.014</u>	<u>0.042</u>	0.008	0.007	<u>0.023</u>	0.01	0.005	
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.0005	0.0005	
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.0005	
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.0005	
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.035	ND	ND	ND	0.02	0.002	
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	クロロエチレン ^(注8)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0004	0.004	0.0004	
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002	
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004	
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.0005	
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006	
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	<u>0.013</u>	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01 ^(注7)	0.001	
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.0005	
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.003	0.0003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.02	0.002
	ベンゼン	<u>0.014</u>	0.006	0.007	0.008	0.008	0.008	0.005	0.006	0.008	0.006	0.003	0.004	0.004	0.002	ND	0.003	0.006	0.004	0.003	0.003	0.002	0.01	0.001	
	セレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.8	0.8
トリ素	<u>1.9</u>	<u>1.2</u>	<u>1.5</u>	<u>1.7</u>	<u>1.6</u>	<u>1.7</u>	<u>1.8</u>	<u>1.7</u>	<u>1.6</u>	<u>1.7</u>	<u>1.6</u>	<u>1.5</u>	<u>1.4</u>	<u>1.5</u>	<u>1.6</u>	<u>1.6</u>	<u>1.6</u>	<u>1.6</u>	<u>1.6</u>	<u>1.7</u>	<u>1.9</u>	<u>1.7</u>	1	0.1	
1,4-ジオキサン	<u>2.4</u>	<u>0.85</u>	<u>1.0</u>	<u>1.2</u>	<u>1.5</u>	<u>1.4</u>	<u>1.1</u>	<u>1.3</u>	<u>2.3</u>	<u>1.4</u>	<u>0.84</u>	<u>1.1</u>	<u>0.96</u>	<u>1.3</u>	<u>0.80</u>	<u>0.41</u>	<u>0.86</u>	<u>0.88</u>	<u>0.94</u>	<u>0.82</u>	<u>0.95</u>	0.05	0.005		
その他の項目	全窒素	3	5	4	3	4	4	3	4	3	3	3	3	2	3	3	3	4	5	3	3	3	-	1	
	全磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.1	
	塩化物イオン	773	330	390	447	430	425	457	460	340	350	340	340	300	370	350	370	270	330	290	320	360	-	1	
	電気伝導率	264	195	197	194	183	210	203	190	170	201	180	140	140	180	170	170	82	330	83	130	1600	-	0.1	
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.007
アンチモン	0.002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.001	
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.006	

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(MPN/100mL)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成21年11月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。(平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。)

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成23年10月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成26年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。)

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。(平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。)

表3 地下水調査結果（F1西地点の推移）

調査地点		F1西																									地下水の環境基準	検出下限	
調査年月日	H15.2.6	H16.2.5	H17.2.7	H18.2.28	H19.2.1	H20.2.13	H21.2.17	H22.2.16	H23.2.9	H23.6.14	H23.8.3	H23.11.22	H24.2.1	H24.5.16	H24.8.1	H24.11.19	H25.2.5	H25.5.22	H25.7.22	H25.11.13	H26.2.17	H26.5.13	H26.7.22	H26.11.25	H27.2.16				
一般項目	pH	7.0	7.0	7.0	6.9	7.3	6.9	7.2	7.7	6.8	6.9	6.9	7.2	6.9	6.8	6.8	7.1	7.1	6.7	6.7	7.1	6.9	7.1	6.7	6.7	6.7	-	-	
	BOD	3.9	6.6	1.0	2.7	0.5	1.6	1.7	1.1	0.9	ND	ND	0.7	0.6	ND	ND	ND	2.1	1.7	0.5	0.6	ND	ND	ND	0.6	1.3	-	0.5	
	COD	5.4	7.9	1.7	2.4	2.4	2.7	2.3	0.9	1.8	2.8	1.9	1.9	1.9	2.0	3.0	2.2	0.9	7.8	6.1	1.7	5.0	2.6	8.0	10	5.8	-	0.5	
	大腸菌群数	22	4.5	2.0	22	33	3.7	7.8	2.0	ND	13	22	540	7.8	11	11	70	ND	69	33	ND	7.8	ND	ND	7.8	ND	-	-	
	油分	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	ND	ND	0.5	ND	-	0.5	
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0004	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003		
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.1	
	有機磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.1	
	鉛	0.024	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005	
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05	
	砒素	0.016	0.016	ND	0.013	ND	0.010	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	0.012	0.008	ND	ND	0.008	ND	0.016	0.009	0.019	0.011	0.011	0.01	0.005	
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0005	0.0005	
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005	
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005	
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002	
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	クロロエチレン ^(注8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.0004	
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002	
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.011	0.04	0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.0005	
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006	
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01 ^(注7)	0.001	
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.0005	
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002	
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.001	
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0003	
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002	
	ベンゼン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	ND	ND	ND	0.001	ND	0.010	0.012	0.007	0.006	0.012	0.01	0.001	
	セレン	ND	ND	0.010	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	10		
フッ素	ND	ND	ND	0.9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.8	0.8		
ホウ素	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.5	0.3	0.5	1	0.1		
1,4-ジオキサン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	ND	0.008	ND	ND	0.006	ND	0.010	0.010	0.010	0.020	0.023	ND	0.017	0.027	0.045	0.025	0.026	0.05	0.005	
その他の項目	全窒素	1	4	ND	ND	1	ND	ND	ND	ND	ND	1.6	1.2	1.2	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	1	
	全磷	ND	ND	ND	0.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.1	
	塩化物イオン	230	230	220	216	223	274	241	250	270	360	248	252	285	331	342	328	338	436	426	280	314	309	539	456	522	-	1	
	電気伝導率	98.6	94	94.6	90	83.7	53.4	47.3	49	110	136	102	109	115	130	133	118	133	168	176	100	127	117	207	174	193	-	0.1	
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.007
アンチモン	ND	0.001	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.001	
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	0.033	0.030	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.006	

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(MPN/100mL)、電気伝導度(mS/m)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成21年11月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。(平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。)

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成23年10月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成26年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。)

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。(平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。)

表3 地下水調査結果 (F1西地点の推移)

調査地点		F1西																				地下水の環境基準	検出下限			
調査年月日	H27.5.19	H27.7.27	H27.11.24	H28.2.9	H28.5.24	H28.7.26	H28.11.8	H29.1.31	H29.5.23	H29.7.26	H29.11.29	H30.2.13	H30.6.26	H30.9.3	H30.10.30	H31.3.13	R1.5.21	R1.9.3	R1.11.19	R2.2.18	R2.8.5	R3.2.10				
一般項目	pH	6.4	6.7	6.8	6.8	6.7	6.6	6.7	6.9	6.7	6.6	6.8	6.8	6.7	6.6	6.9	6.9	6.7	6.5	7.0	7.0	6.8	7.0	-	-	
	BOD	ND	0.7	ND	1.3	0.8	0.8	1.4	1.8	4.9	7.7	3.6	6.4	4.2	4.9	3.9	4.5	4.7	5.2	8.3	2.8	3.5	4.8	-	0.5	
	COD	6.9	6.4	7.2	6.5	7.4	6.3	7.4	7.7	8.8	7.2	6.0	8.5	8.2	7.1	5.8	7.8	9.2	9.2	15	10	9.3	12	-	0.5	
	大腸菌群数	ND	2.0	7.8	2.0	13	79	ND	ND	ND	ND	ND	ND	490	4.5	ND	ND	79	490	49	ND	-	-	-	1	
	油分	ND	ND	1.2	ND	0.7	ND	0.9	ND	1.5	ND	ND	ND	ND	0.6	ND	0.5	0.5	ND	ND	0.7	ND	ND	-	0.5	
健康項目	カドミウム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003 ^(注6)	0.0003	
	全シアン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.1	
	有機磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.1	
	鉛	ND	ND	ND	ND	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.005	
	六価クロム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.05	0.05	
	砒素	0.020	0.024	0.030	0.039	0.038	0.030	0.033	0.045	0.048	0.040	0.034	0.046	0.043	0.036	0.034	0.052	0.054	0.049	0.065	0.049	0.041	0.053	0.01	0.005	
	総水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.0005	0.0005
	アルキル水銀	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.0005
	PCB	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	検出されないこと	0.0005
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	クロロエチレン ^(注8)	0.0005	ND	ND	0.0006	ND	ND	ND	0.0002	0.0002	0.0002	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0002	ND	ND	0.0002	0.0011	0.002	0.0002	
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.004	0.0004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注4)	0.002
	1,2-ジクロロエチレン ^(注5)	0.019	ND	ND	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.0005
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.006	0.0006
	トリクロロエチレン	0.021	0.002	ND	0.009	ND	0.003	ND	0.003	0.001	0.001	ND	0.003	ND	0.002	0.002	ND	ND	ND	ND	0.001	ND	0.001	0.01 ^(注7)	0.001	
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.0005
	1,3-ジクロロプロパン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.002	0.0002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.006	0.001
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.003	0.0003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.02	0.002
	ベンゼン	0.015	0.001	0.001	0.012	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.001	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.001
	セレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.01	0.005
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	10	10
	フッ素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.8	0.8
ホリ素	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.7	0.8	0.9	1.2	1.2	1.6	1.6	1	0.1		
1,4-ジオキサン	0.039	0.027	0.025	0.019	0.029	0.026	0.033	0.028	0.034	0.053	0.023	0.025	0.035	0.026	0.038	0.026	0.028	0.028	0.024	0.022	0.020	0.032	0.05	0.005		
その他の項目	全窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	1	1	2	2	2	-	1		
	全磷	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	ND	0.1	0.1	ND	0.1	-	0.1		
	塩化物イオン	545	554	539	496	555	498	588	584	660	540	440	540	530	480	420	450	480	440	420	470	450	560	-	1	
	電気伝導率	197	204	202	191	205	181	220	208	200	194	188	198	190	95	170	140	81	86	170	93	160	1900	-	0.1	
	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.007
アソチモン	ND	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.001	
フタル酸ジエチルヘキシル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.006	

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(MPN/100mL)、電気伝導率(mS/m)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線は地下水の環境基準を超過しているもの。

(注4)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成21年11月調査までの環境基準値は0.02mg/Lである。)

(注5)環境省通知に基づき、シス体及びトランス体を合わせて1つの地下水環境基準項目となったため、名称を変更した。(平成22年1月調査までは、シス体のみ調査を実施した。)

(注6)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成23年10月調査までの環境基準値は0.01mg/Lである。)

(注7)環境省通知に基づき、環境基準を変更した。(平成26年11月調査までの環境基準値は0.03mg/Lである。)

(注8)環境省通知に基づき、名称を変更した。(平成29年3月調査までは塩化ビニルモノマーである。)

豊島における環境計測（北揚水井、高度排水処理施設）の結果

豊島処分地内の地下水の浄化処理における効果の把握を目的として、高度排水処理施設に関する環境計測を実施している。なお、同施設は北揚水井からの揚水を原水の一部としている。

今回、令和3年2月及び5月に実施した北揚水井の水質及び高度排水処理施設の処理水の調査結果についてとりまとめた。

1. 調査の概要

(1) 調査日

令和3年2月4日（木）（北揚水井のみ）

令和3年5月27日（木）

(2) 調査地点（調査地点図参照）

高度排水処理施設の原水流入槽（北揚水井）

高度排水処理施設の放流ピット（処理水）

(3) 検体採取機関及び分析機関

採取機関：環境保健研究センター

分析機関：環境保健研究センター

2. 結果の概要

北揚水井については、化学的酸素要求量（COD）が管理基準を満たさなかった。

なお、5月は地下水位が低いため採水できなかった。

高度排水処理施設の処理水については、全ての項目で管理基準を満足していた。

3. 参考

北揚水井の令和3年1月から7月までの月間揚水量は0～452m³の範囲であり、高度排水処理施設の処理能力（約3,900 m³/月）を大きく下回っている。

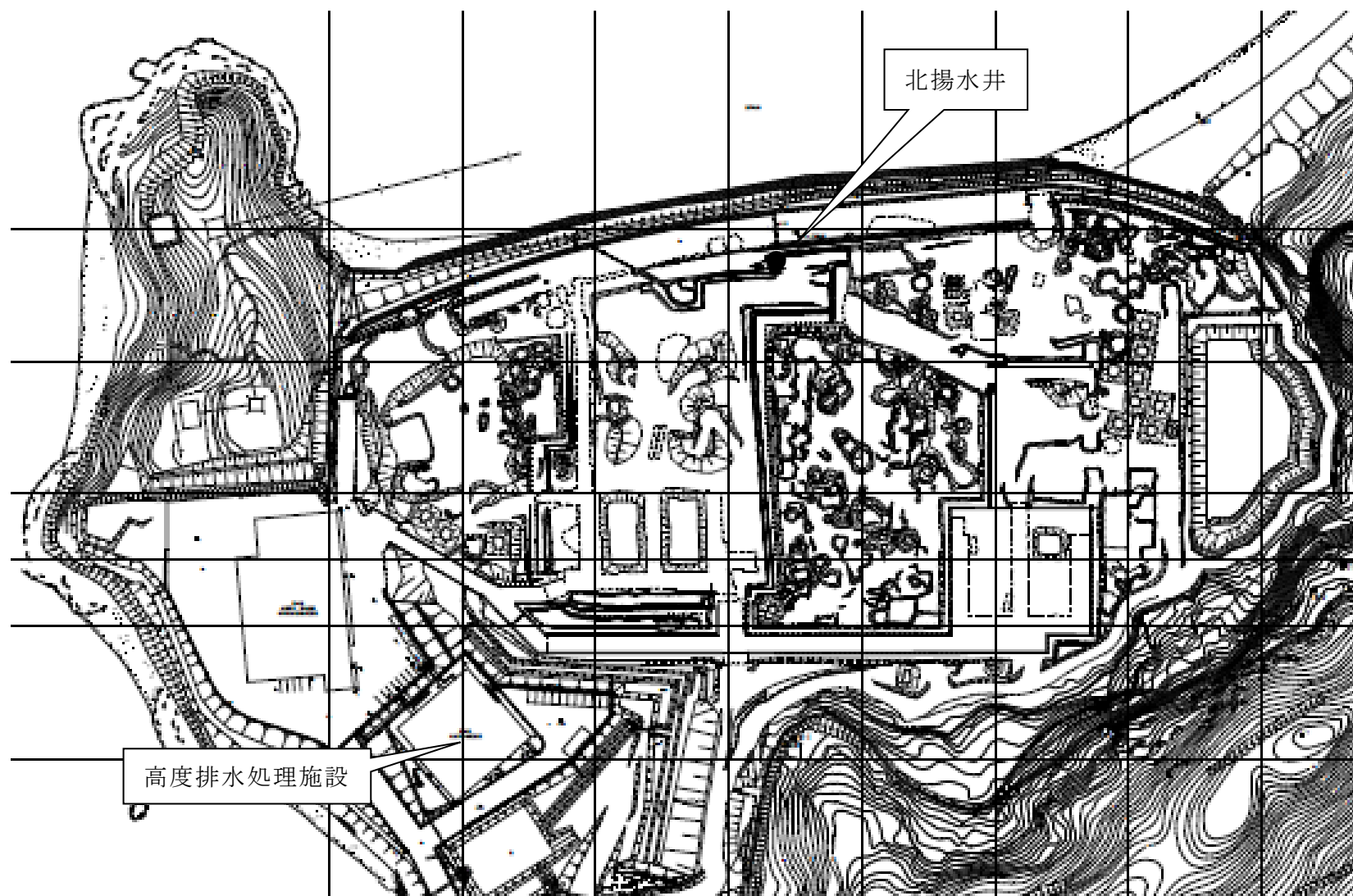


図 豊島における環境計測（北揚水井、高度排水処理施設）調査地点

表1 豊島における環境計測結果（北揚水井）

検査項目	北揚水井																								管理基準値 (参考)	検出下限	
	平成15年度		平成16年度			平成17年度			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度			平成27年度			平成28年度				
	H15.10.16	H16.2.5	最小	最大	平均	最小	最大	平均	H18.10.12	H19.10.25	H20.10.21	H21.10.27	H22.10.20	H23.10.20	H24.11.1	H25.11.18	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大			平均
水素イオン濃度 (pH)	7.4	7.4	7.2	7.5	7.3	7.2	7.4	7.3	7.0	7.2	7.2	7.4	7.1	7.8	7.2	7.2	7.3	7.5	7.4	7.1	7.6	7.4	7.3	7.7	7.5	5.0~9.0	-
生物化学的酸素要求量 (BOD)	<u>56</u>	<u>93</u>	<u>32</u>	<u>120</u>	<u>66</u>	28	<u>41</u>	<u>32</u>	17	<u>96</u>	<u>41</u>	<u>66</u>	<u>63</u>	<u>37</u>	ND	4.1	8.0	<u>31</u>	18	15	<u>90</u>	<u>43</u>	28	<u>58</u>	<u>45</u>	30 (日間平均20)	0.5
化学的酸素要求量 (COD)	<u>170</u>	<u>340</u>	<u>170</u>	<u>270</u>	<u>210</u>	<u>110</u>	<u>320</u>	<u>190</u>	<u>110</u>	<u>370</u>	<u>250</u>	<u>350</u>	<u>220</u>	<u>77</u>	<u>100</u>	<u>41</u>	<u>63</u>	<u>170</u>	<u>120</u>	<u>77</u>	<u>180</u>	<u>140</u>	<u>110</u>	<u>160</u>	<u>130</u>	30 (日間平均20)	0.5
浮遊物質 (SS)	4.4	15	7.0	17	11	5.0	7.0	5.8	7	10	10	4	20	3	7	1.0	14	9.3	6.4	<u>120</u>	48	42	<u>95</u>	<u>59</u>	50 (日間平均40)	1	
大腸菌群数	0	0	4	80	41	2	280	130	17	44	180	20	20	1	0	0	0	84	22	270	1900	770	58	94000	24000	(日間平均3000)	-
油分 (1/5000抽出物含有量)	8.7	13	4.2	9.0	5.6	1.7	3.5	2.6	1.5	3.1	2.5	1.8	3.9	0.8	0.9	1.8	ND	2.4	2.0	ND	4.0	2.7	1.6	3.2	2.5	30(検出限にあっては5)	0.5
フェノール類含有量	ND	0.7	0.11	1.9	1.0	0.57	3.5	2.2	0.14	0.10	0.02	ND	0.02	0.14	0.13	0.02	0.02	0.09	0.06	0.04	0.21	0.11	0.04	0.17	0.10	5	0.02
銅含有量	ND	ND	ND	0.65	0.65	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
亜鉛含有量	ND	ND	ND	0.8	0.8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.5
溶解性鉄含有量	4.5	5	ND	1.5	0.88	0.20	4.4	2.3	0.64	1.2	ND	0.35	0.46	0.19	0.26	0.10	0.15	0.32	0.21	0.10	0.23	0.18	ND	0.20	0.17	10	0.05
溶解性マンガン含有量	0.48	0.8	ND	1.5	1.2	ND	0.7	0.6	0.6	0.8	0.7	0.5	0.5	0.7	0.6	ND	0.5	1.7	1.0	ND	2.8	2.1	1.6	3.9	2.3	10	0.4
クロム含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.2
窒素含有量	<u>150</u>	<u>150</u>	98	<u>150</u>	110	83	<u>180</u>	120	80	<u>220</u>	<u>140</u>	<u>140</u>	<u>230</u>	27	23	16	12	38	24	15	36	21	14	26	18	120 (日間平均60)	1
有機炭素含有量	0.4	0.2	0.2	0.5	0.3	0.1	0.6	0.4	0.4	0.6	0.5	0.6	0.8	0.3	0.6	ND	ND	1.1	0.5	0.4	1.2	0.9	0.8	1.1	1.0	16 (日間平均8)	0.1
カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03 ^(注4)	0.003
シアン化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
鉛及びその化合物	ND	ND	ND	0.01	0.01	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	ND	0.02	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.01	0.01	0.1	0.01
有機化合物	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
六価クロム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05
砒素及びその化合物	0.013	ND	ND	0.01	0.01	ND	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	ND	ND	ND	ND	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.1	0.01
水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.0005
アルキル水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005
P C B	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0005
トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注5)	0.03
テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.007	0.007	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.02
シス-1,2-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.4	0.04
1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.003
チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
ベンゼン	<u>0.19</u>	<u>1.3</u>	<u>0.13</u>	<u>0.66</u>	<u>0.34</u>	0.08	<u>1.4</u>	<u>0.49</u>	<u>0.14</u>	<u>0.99</u>	<u>0.73</u>	<u>0.49</u>	<u>0.67</u>	ND	<u>0.89</u>	0.02	0.02	<u>0.27</u>	<u>0.14</u>	0.03	<u>0.26</u>	<u>0.12</u>	0.04	<u>0.57</u>	<u>0.20</u>	0.1	0.01
セレン及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
ほう素及びその化合物	16	22	13	21	16	12	23	15	10	22	17	17	16	10	9.4	3.8	4.4	12	8.7	5.8	10	8.7	7.4	11	9.4	230	0.1
ふっ素及びその化合物	1	0.9	ND	2.3	1.6	0.9	1.3	1.0	1.1	1.1	ND	1.0	0.9	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	0.8
アモニア、アミン化合物、亜硝酸化合物 及び硝酸化合物	40	57	40	55	44	30	68	44	71	85	99	<u>110</u>	<u>140</u>	ND	23	ND	ND	20	15	ND	19	19	ND	ND	ND	100	10
1,4-ジオキサン															0.07	ND	0.11	0.46	0.29	0.15	0.32	0.25	0.20	0.33	0.27	0.5	0.05
ニッケル	0.01	<u>0.17</u>	0.06	<u>0.30</u>	<u>0.17</u>	0.06	0.08	0.07	0.05	0.06	ND	0.05	ND	ND	ND	0.06	ND	ND	ND	ND	0.10	0.10	ND	ND	ND	0.1	0.05
モリブデン	ND	ND	ND	0.10	0.09	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.07	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.07
全マンガン	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	0.8	0.7	0.6	0.5	0.7	0.7	ND	0.6	0.6	0.6	-	-	-	1.9	1.9	1.9	-	0.4
ウラン	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0008	0.0008	0.0008	0.0012	0.0008	0.0006	0.0003	0.0017	0.0013	0.0013	0.0013	0.0025	0.0025	0.0025	0.0070	0.0070	0.0070	-	0.0001
ダイオキシン類	<u>0.66</u>	1.9	0.29	1.8	1.0	0.58	2.8	1.4	1.4	0.25	0.068	0.058	0.63	<u>23</u>	0.57	4.7	3.0	6.6	4.3	3.0	<u>44</u>	<u>24</u>	<u>22</u>	<u>350</u>	<u>120</u>	10	-

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線：管理基準を満足していない項目

(注4)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成26年11月までの排水基準値は0.1mg/Lである。)

(注5)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成27年10月までの排水基準値は0.3mg/Lである。)

平成16年度：H16.5.17、H16.7.5、H16.10.4、H17.1.25実施、平成17年度：H17.5.10、H17.7.12、H17.10.4、H18.1.12実施

平成26年度：H26.5.13、H26.7.29、H26.10.16、H27.2.16実施、平成27年度：H27.5.19、H27.7.27、H27.11.25、H28.2.9実施、平成28年度：H28.5.24、H28.7.25、H28.11.15、H29.2.7実施

表1 豊島における環境計測結果（北揚水井）

検査項目	北揚水井														管理基準値 (参考)	検出下限
	平成29年度			平成30年度 ^(注6)			令和元年度			令和2年度				令和3年度		
	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	R2.5.13	R2.8.11	R2.11.10	R3.2.4	R3.5.27		
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH)	7.3	7.6	7.4	7.1	7.5	7.4	7.1	7.4	7.3	7.1	7.1	7.4	7.5	5.0~9.0	-
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	18	<u>44</u>	<u>32</u>	<u>37</u>	<u>45</u>	<u>41</u>	-	-	-	-	-	-	-	30 (日間平均20)	0.5
	化学的酸素要求量 (COD)	56	130	93	40	120	85	36	87	64	84	56	30	31	30 (日間平均20)	0.5
	浮遊物質 (SS)	37	<u>72</u>	48	45	<u>150</u>	<u>95</u>	13	<u>280</u>	<u>110</u>	13	10	50	7	50 (日間平均40)	1
	大腸菌群数	0	150	50	0	850	280	-	-	-	-	-	-	-	(日間平均3000)	-
	油分 (メタノール抽出物質含有量)	1.3	5.0	2.4	1.0	3.2	2.2	0.8	3.9	2.5	ND	ND	ND	ND	30(経過期にあっては15)	0.5
	フェノール類含有量	0.04	0.06	0.05	ND	0.07	0.05	ND	0.03	0.03	0.02	0.04	0.03	0.02	5	0.02
	銅含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	3	0.3
	亜鉛含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	2	0.5
	溶解性鉄含有量	ND	0.17	0.12	0.09	0.23	0.14	0.06	1.1	0.39	0.08	0.07	ND	ND	10	0.05
	溶解性マンガン含有量	4.4	6.4	5.6	3.0	10	7.1	3.5	<u>12</u>	5.9	9.7	8.1	1.6	0.7	10	0.4
	クロム含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	2	0.2
	窒素含有量	97	110	100	34	<u>130</u>	99	12	85	45	96	98	3	60	120 (日間平均60)	1
	磷含有量	0.3	1.3	0.7	0.1	0.5	0.2	ND	0.1	0.1	ND	0.1	0.1	ND	16 (日間平均8)	0.1
	健康項目	カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.03 ^(注4)
シアン化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1
鉛及びその化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01
有機燐化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1
六価クロム及びその化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.5	0.05
砒素及びその化合物		ND	0.01	0.01	ND	0.01	0.01	ND	0.01	0.01	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.005	0.0005
アルキル水銀化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	検出されないこと	0.0005
P C B		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.003	0.0005
トリクロロエチレン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.1 ^(注5)	0.03
テトラクロロエチレン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01
ジクロロメタン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.02
四塩化炭素		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.02	0.002
1,2-ジクロロエタン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.04	0.004
1,1-ジクロロエチレン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	1	0.02
シス-1,2-ジクロロエチレン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.4	0.04
1,1,1-トリクロロエタン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	3	0.3
1,1,2-トリクロロエタン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.06	0.006
1,3-ジクロロプロペン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.02	0.002
チウラム		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.06	0.006
シマジン		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.03	0.003
チオベンカルブ		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.2	0.02
ベンゼン		ND	<u>0.19</u>	<u>0.13</u>	0.03	<u>1.1</u>	<u>0.38</u>	ND	<u>0.26</u>	<u>0.14</u>	<u>0.25</u>	0.10	ND	ND	0.1	0.01
セレン及びその化合物		ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01
ほう素及びその化合物		5.2	8.9	7.1	6.6	7.7	7.1	-	-	-	-	-	-	-	230	0.1
ふっ素及びその化合物		ND	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	15	0.8
アミノ、アミノ化合物、亜硝酸化合物 及び硝酸化合物		35	52	43	26	57	43	ND	34	32	40	40	ND	30	100	10
1,4-ジオキサン	0.16	0.30	0.24	ND	0.20	0.17	ND	0.17	0.13	0.24	0.30	ND	0.32	0.5	0.05	
その他	ニッケル	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.1	0.05
	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	-	0.07
	全マンガン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4
	ウラン	-	-	-	0.0029	0.0029	0.0029	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0001
	ダイオキシン類	3.7	<u>38</u>	<u>19</u>	3.2	10	7.1	0.93	<u>21</u>	<u>12</u>	2.5	4.7	1.8	3.5	10	-

採水できず欠測

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類 (pg-TEQ/L) を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。
(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。
(注3)下線：管理基準を満足していない項目
(注4)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成26年11月までの排水基準値は0.1mg/Lである。)
(注5)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成27年10月までの排水基準値は0.3mg/Lである。)
(注6)豊島処分地下水・雨水等対策検討会での審議を踏まえ、H30.10月から検査項目を変更した。

平成29年度：H29.5.23、H29.7.26、H29.11.29、H30.2.13実施、平成30年度：H30.6.26、H30.9.3、H30.10.30、H31.3.13実施
令和元年度：R1.5.14、R1.8.26、R1.11.28、R2.2.25実施、令和2年度：R2.5.13、R2.8.11、R2.11.10、R3.2.4実施

表2 豊島における環境計測結果（高度排水処理施設）

検査項目	高度排水処理施設																										管理基準値	検出下限
	平成15年度			平成16年度			平成17年度			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	H18.10.12	H19.10.25	H20.10.21	H21.10.27	H22.10.20	H23.10.20	H24.11.1	H25.11.18	H26.11.16	H27.11.25	H28.11.15	H29.11.29	H30.10.30	R1.11.28	R2.11.10	R3.5.27			
水素イオン濃度 (pH)	6.6	7.2	6.8	7.0	7.1	7.1	6.6	7.1	6.9	6.7	6.6	6.4	7.0	6.8	6.7	6.8	6.9	7.2	7.2	7.2	7.2	7.5	7.0	7.9	7.4	7.5	5.0~9.0	-
生物化学的酸素要求量 (BOD)	3.0	3.6	3.4	1.3	3.1	2.4	0.5	1.6	0.9	0.6	1.0	0.5	ND	ND	0.8	0.8	0.7	2.7	1.4	1.4	1.1	-	-	-	-	30 (日間平均20)	0.5	
化学的酸素要求量 (COD)	4.7	13	9.2	1.1	10	4.4	2.4	7.8	4.9	0.7	12	4.0	12	4.6	3.9	4.0	4.2	12	4.7	5.5	2.6	4.2	4.1	8.5	3.1	30 (日間平均20)	0.5	
浮遊物質 (SS)	ND	1	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	ND	ND	ND	1	ND	2	ND	ND	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	50 (日間平均40)	1	
大腸菌群数	0	24	8	0	2	1	0	28	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	23	84	0	0	0	0	0	(日間平均3000)	-	
油分 (100ml抽出物含有量)	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.6	ND	ND	ND	ND	35	0.5	
フェノール類含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.02	
銅含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3	
亜鉛含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.2	
溶解性鉄含有量	ND	ND	ND	ND	0.13	0.07	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	0.05	
溶解性マンガン含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	0.4	
クロム含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.2	
窒素含有量	7	45	23	4	20	10	2	22	13	3	33	17	18	36	27	8	ND	18	6	36	25	40	1	4	9	120 (日間平均60)	1	
リン含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	ND	ND	16 (日間平均8)	0.1	
カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.003	
シアン化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1	
鉛及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01	
有機化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1	
六価クロム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05	
砒素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01	
水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.0005	
アルキル水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005	
P C B	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0005	
トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注3)	0.03	
テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01	
ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02	
四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002	
1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004	
1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.02	
1,1,2-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.4	0.04	
1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3	
1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006	
1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002	
チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006	
シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.003	
チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02	
ベンゼン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01	
セレン及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01	
ほう素及びその化合物	7.4	15	11	10	18	15	10	15	13	6.3	12	8.8	11	10	9.3	4.9	4.0	8.9	6.2	6.0	3.2	4.0	9.1	8.6	10	230	0.1	
ふっ素及びその化合物	0.8	1.0	0.9	ND	ND	ND	1.1	0.9	ND	ND	1.0	ND	0.9	0.8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	0.8	
アモニア、アモニア化合物、亜硝酸化合物 及び硝酸化合物	ND	41	17	ND	18	12	11	20	14	ND	24	17	10	21	26	ND	ND	ND	ND	ND	25	12	ND	ND	ND	100	10	
1,4-ジオキサン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.05	0.05	ND	ND	ND	0.38	0.09	0.5	0.05	
ニッケル	ND	0.05	0.05	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	0.1	0.05	
モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.07	
全マンガン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.4	
ウラン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.0001	
ダイオキシン類	0	0.014	0.0047	0.00012	0.019	0.0050	0.00062	9.1	2.3	0.00013	0.00060	0.00035	0.00037	0	0.00081	0.0026	0	0	0	0	0.000063	0.00020	0.000030	0.00015	0.00031	10	-	

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cml)、ダイオキシン類 (pg-TEQ/L) を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。
(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。
(注3)環境省通知に基づき、排水基準を変更した。(平成27年10月調査までの排水基準値は0.3mg/Lである。)
平成15年度：H15.7.22、H15.10.16、H16.2.5実施、平成16年度：H16.5.17、H16.7.5、H16.10.4、H17.1.25実施、平成17年度：H17.5.10、H17.7.12、H17.10.4、H18.1.12実施

豊島における環境計測（沈砂池）の結果

雨水の放流による環境影響を把握することを目的として、沈砂池の環境計測を実施している。今回、令和3年6月に実施した水質調査結果をとりまとめた。

1. 調査の概要

(1) 調査日

令和3年6月10日（木）

(2) 調査地点（調査地点図参照）

沈砂池1、沈砂池2

(3) 検体採取機関及び分析機関

廃棄物対策課、環境保健研究センター

2. 結果の概要（表1及び表2）

- ・検査を行った全ての項目について、管理基準を満足していた。



調査地点図

表1 豊島における環境計測結果（沈砂池1）

	検査項目	沈砂池1																		管理基準値	検出下限
		平成16年度			平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度				
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均		
生活環境項目	水素イオン濃度（pH）	7.0	9.4	8.2	8.1	8.9	8.4	7.2	8.8	8.0	7.5	8.8	8.2	7.7	9.0	8.4	6.8	8.7	7.9	5.0～9.0	-
	生物学的酸素要求量（BOD）	2.3	3.1	2.7	0.6	1.5	1.1	1.0	2.2	1.8	0.5	1.3	0.9	0.5	1.1	0.8	ND	2.2	1.3	30（日間平均20）	0.5
	化学的酸素要求量（COD）	4.2	12	7.2	2.4	6.5	3.8	4.0	14	7.3	2.6	5.8	4.3	3.6	5.6	4.6	4.4	5.8	5.2	30（日間平均20）	0.5
	浮遊物質（SS）	8	16	11	2	4	3	1	2	2	ND	2	1	ND	3	3	ND	3	2	50（日間平均40）	1
	大腸菌群数	0	4	1	-	-	-	0	0	0	19	19	19	0	0	0	1	1	1	（日間平均3000）	-
	油分（n-ヘキサン抽出物質）	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	30（鉱油類にあっては5）	0.5
	フェノール類	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.02
	銅含有量	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
	亜鉛含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.5
	溶解性鉄含有量	ND	0.30	0.30	ND	0.20	0.17	ND	0.10	0.08	ND	0.16	0.11	ND	0.08	0.08	0.13	0.20	0.16	10	0.05
	溶解性マンガン含有量	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	0.4
	クロム含有量	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.2
	窒素含有量	ND	1.7	1.4	ND	3.0	2.5	ND	1.0	1.0	ND	1.0	1.0	ND	1.0	1.0	ND	5.0	3.0	120（日間平均60）	1
	燐含有量	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	16（日間平均8）	0.1
健康項目	カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03 ^(注5)	0.003
	シアン化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
	鉛及びその化合物	ND	0.01	0.01	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	有機燐化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
	六価クロム化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05
	砒素及びその化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.0005
	アルキル水銀化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005
	P C B	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0005
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注6)	0.03
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
	四塩化炭素	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
	シス-1,2-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.4	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
	1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	チウラム	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
	シマジン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
	ベンゼン	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	セレン及びその化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	ほう素及びその化合物	ND	0.2	0.2	-	-	-	0.2	0.2	0.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	230	0.1
	ふっ素及びその化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	0.8
	アモニア、アモニウム化合物、亜硝酸 化合物及び硝酸化合物	ND	ND	ND	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	100	10
その他	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.07
	全マンガン	-	-	-	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.4
	ウラン	-	-	-	-	-	-	0.0001	0.0001	0.0001	0.0003	0.0003	0.0003	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	-	0.0001
	ダイオキシン類	3.2	15	7.2	0.20	1.4	0.78	0.081	1.8	1.0	0.012	8.3	1.9	0.14	4.2	1.5	0.22	1.0	0.58	10	-

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類(pg-TEQ/L)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線：管理基準を満足していない項目

(注4)平成18年度及び平成30年度に項目、頻度などの見直しを行った。

(注5)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成26年11月までの排水基準値は0.1mg/Lである。)

(注6)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成27年10月までの排水基準値は0.3mg/Lである。)

表1 豊島における環境計測結果（沈砂池1）

検査項目	沈砂池1																		管理基準値	検出下限
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度				
	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均		
水素イオン濃度（pH）	6.9	8.1	7.5	7.4	8.3	8.0	7.6	8.7	8.0	7.8	8.4	8.1	8.0	8.9	8.4	7.7	8.5	8.2	5.0～9.0	-
生物化学的酸素要求量（BOD）	ND	1.0	0.8	ND	1.1	1.1	ND	1.3	0.8	ND	1.3	0.8	ND	1.7	1.4	0.9	2.0	1.4	30（日間平均20）	0.5
化学的酸素要求量（COD）	4.3	12	8.8	4.2	18	9.0	5.8	18	9.7	4.9	9.4	6.5	0.5	7.5	4.8	3.0	5.7	4.6	30（日間平均20）	0.5
浮遊物質（SS）	ND	4	3	ND	4	3	ND	3	2	ND	3	2	ND	5	3	1	2	1	50（日間平均40）	1
大腸菌群数	0	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	10	10	10	53	53	53	（日間平均3000）	-
油分（n-ヘキサン抽出物質）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	30（鉱油類にあっては5）	0.5
フェノール類	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.06	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.02
銅含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
亜鉛含有量	ND	ND	ND	ND	0.3	0.3	ND	0.2	0.2	ND	0.5	0.5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.5
溶解性鉄含有量	ND	1.8	0.40	ND	0.20	0.15	ND	0.18	0.12	ND	0.14	0.08	ND	0.16	0.13	ND	0.21	0.13	10	0.05
溶解性マンガン含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.7	0.6	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	0.4
クロム含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.2
窒素含有量	1.0	7.0	4.1	ND	5.0	3.4	2.0	10	4.4	1.0	2.0	1.9	1.0	2.0	1.4	ND	1.0	1.0	120（日間平均60）	1
磷含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	16（日間平均8）	0.1
カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03 ^(注5)	0.003
シアン化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
鉛及びその化合物	ND	0.01	0.01	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
有機磷化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	1	0.1
六価クロム化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05
砒素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.0005
アルキル水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005
P C B	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0005
トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注6)	0.03
テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
シス-1,2-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.4	0.04
1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.06	0.006
シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.03	0.003
チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	0.2	0.02
ベンゼン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
セレン及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
ほう素及びその化合物	0.9	1.9	1.4	ND	ND	ND	0.8	1.5	1.2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.1	0.1	0.1	230	0.1
ふっ素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	0.8
アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸 化合物及び硝酸化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	100	10
1,4-ジオキサン	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05
モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.16	0.16	ND	ND	ND	-	0.07
全マンガン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.8	0.7	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.4
ウラン	0.0016	0.0016	0.0016	0.0002	0.0002	0.0002	0.0019	0.0019	0.0019	0.0010	0.0010	0.0010	0.0007	0.0007	0.0007	0.0001	0.0001	0.0001	-	0.0001
ダイオキシン類	0.1	6.0	2.4	0.7	10	5.9	0.3	9.5	3.8	0.0	9.9	1.9	0.0	3.2	1.4	1.2	6.8	3.7	10	-

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類(pg-TEQ/L)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線：管理基準を満足していない項目

(注4)平成18年度及び平成30年度に項目、頻度などの見直しを行った。

(注5)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成26年11月までの排水基準値は0.1mg/Lである。)

(注6)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成27年10月までの排水基準値は0.3mg/Lである。)

表1 豊島における環境計測結果（沈砂池1）

検査項目	沈砂池1											管理基準値	検出下限		
	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度	令和3年度				
	最小	最大	平均	H30. 7. 12	H30. 10. 11	H31. 4. 25 ^(注5)	R1. 8. 26	R2. 1. 21	R2. 3. 18	R2. 10. 6	R3. 6. 10				
生活環境項目	水素イオン濃度（pH）	6.7	7.8	7.4	7.7	7.8	7.7					8.9	8.0	5.0～9.0	-
	生物化学的酸素要求量（BOD）	1.4	2.6	1.9	3.2	4.3	-					-	-	30（日間平均20）	0.5
	化学的酸素要求量（COD）	3.0	5.3	4.1	5.0	5	23					7.2	12	30（日間平均20）	0.5
	浮遊物質（SS）	1	3	2	8	1	7					4	12	50（日間平均40）	1
	大腸菌群数	0	0	0	0	-	-					-	-	（日間平均3000）	-
	油分（n-ヘキサン抽出物質）	ND	ND	ND	1.3	-	-					-	-	30（鉱油類にあっては5）	0.5
	フェノール類	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	5	0.02
	銅含有量	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	3	0.3
	亜鉛含有量	ND	ND	ND	ND	ND	-					-	-	5	0.5
	溶解性鉄含有量	ND	0.08	0.08	1.0	ND	ND					ND	ND	10	0.05
	溶解性マンガン含有量	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	10	0.4
	クロム含有量	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	2	0.2
	窒素含有量	ND	ND	ND	2.7	ND	-					-	-	120（日間平均60）	1
	リン含有量	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	16（日間平均8）	0.1
健康項目	カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.03	0.003
	シアン化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	1	0.1
	鉛及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	-					-	-	0.1	0.01
	有機リン化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	1	0.1
	六価クロム化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.5	0.05
	砒素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.1	0.01
	水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.005	0.0005
	アルキル水銀化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	検出されないこと	0.0005
	P C B	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.003	0.0005
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.1	0.03
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.1	0.01
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.2	0.02
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.02	0.002
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.04	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.2	0.02
	シス-1,2-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.4	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	3	0.3
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.06	0.006
	1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.02	0.002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.06	0.006
	シマジン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.03	0.003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.2	0.02
	ベンゼン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.1	0.01
	セレン及びその化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.1	0.01
	ほう素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	230	0.1
	ふっ素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	15	0.8
	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸 化合物及び硝酸化合物	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	100	10
	1,4-ジオキサン	ND	ND	ND	ND	-	-					-	-	0.5	0.05
その他	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	-				-	-	-	0.07	
	全マンガン	ND	ND	ND	ND	-	-				-	-	-	0.4	
	ウラン	0.0001	0.0001	0.0001	0.0008	-	-				-	-	-	0.0001	
	ダイオキシン類	0.00047	0.89	0.33	0.89	0.015	0.032				0.10	0.51	10	-	

採水できず欠測

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類(pg-TEQ/L)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。
(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。
(注3)下線：管理基準を満足していない項目
(注4)平成18年度及び平成30年度に項目、頻度などの見直しを行った。
(注5)沈砂池1の管理を自然越流方式に切替え済みであり、沈砂池1内の溜まり水を採水したため参考値である。

表2 豊島における環境計測結果（沈砂池2）

検査項目	沈砂池2																		管理基準値	検出下限	
	平成16年度			平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度					
	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均			
生活環境項目	水素イオン濃度（pH）	7.5	9.5	8.4	7.3	8.6	7.8	7.8	8.9	8.3	7.8	8.8	8.5	7.7	8.7	8.1	7.1	7.4	7.3	5.0～9.0	-
	生物学的酸素要求量（BOD）	2.8	5.1	4.0	1.4	3.5	2.2	1.0	3.9	2.4	0.6	2.9	1.7	0.7	1.5	1.0	ND	1.2	1.2	30（日間平均20）	0.5
	化学的酸素要求量（COD）	5.4	11	8.2	4.6	7.3	5.8	5.0	16	8.6	7.0	8.6	7.8	6.3	9.1	7.6	6.3	7.9	7.1	30（日間平均20）	0.5
	浮遊物質（SS）	5	110	41	2	4	3	2	7	4	3	3	3	1	3	3	1	2	1	50（日間平均40）	1
	大腸菌群数	0	42	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	（日間平均3000）	-
	油分（n-ヘキサン抽出物質）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	30（鉱油類にあっては5）	0.5
	フェノール類	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.02
	銅含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
	亜鉛含有量	ND	1.0	1.0	ND	2.7	2.7	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5	0.5
	溶解性鉄含有量	ND	1.3	1.3	0.05	0.47	0.19	ND	0.06	0.06	ND	0.22	0.15	ND	0.30	0.18	0.08	0.09	0.09	10	0.05
	溶解性マンガン含有量	ND	0.4	0.4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	10	0.4
	クロム含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	2	0.2
	窒素含有量	1.5	2.0	1.8	1.0	3.0	2.0	ND	1.0	1.0	ND	3.0	2.0	ND	7.0	3.3	3.0	8.0	5.5	120（日間平均60）	1
	燐含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	16（日間平均8）	0.1
健康項目	カドミウム及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03 ^(注5)	0.003
	シアン化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
	鉛及びその化合物	ND	0.06	0.06	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	有機燐化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1	0.1
	六価クロム化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.5	0.05
	砒素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.005	0.0005
	アルキル水銀化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	0.0005
	P C B	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.003	0.0005
	トリクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1 ^(注6)	0.03
	テトラクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	ジクロロメタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
	四塩化炭素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	1,2-ジクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.04	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
	シス-1,2-ジクロロエチレン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.4	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	3	0.3
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
	1,3-ジクロロプロペン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.02	0.002
	チウラム	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.06	0.006
	シマジン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.03	0.003
	チオベンカルブ	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.02
	ベンゼン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
	セレン及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.01
ほう素及びその化合物	0.1	8.2	4.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.1	0.1	0.1	ND	ND	ND	230	0.1	
ふっ素及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.2	0.2	0.2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	0.8	
アモニア、アモニウム化合物、亜硝酸 化合物及び硝酸化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	100	10	
その他	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.07
	全マンガン	-	-	-	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	0.4
	ウラン	-	-	-	0.0007	0.0007	0.0007	0.0008	0.0008	0.0008	0.0006	0.0006	0.0006	0.0012	0.0012	0.0012	0.0003	0.0003	0.0003	-	0.0001
	ダイオキシン類	6.4	14	10	0.5	2.6	1.4	0.0	1.3	0.6	0.2	15	3.9	0.1	2.3	1.0	0.7	1.4	1.1	10	-

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類(pg-TEQ/L)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線：管理基準を満足していない項目

(注4)平成18年度及び平成30年度に項目、頻度などの見直しを行った。

(注5)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成26年11月までの排水基準値は0.1mg/Lである。)

(注6)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。(平成27年10月までの排水基準値は0.3mg/Lである。)

表2 豊島における環境計測結果（沈砂池2）

検査項目	沈砂池2																		管理基準値	検出下限
	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	平成28年度	平成30年度	令和元年度			令和2年度	令和3年度				
	H23.11.11	H24.1.24	H24.5.9	H24.12.27	H25.12.4	H26.2.6	H26.9.30	H27.3.23	H27.8.26	H29.3.7	H30.11.14	H31.4.25	R1.8.26	R2.1.21	R2.3.18	R2.10.6	R3.6.10			
生活環境項目	水素イオン濃度（pH）	8.8	8.4	8.8	7.6	7.0	7.1	8.0	7.5	8.4	7.9	8.1	8.1	9.0	8.0	8.1	8.7	8.5	5.0～9.0	-
	生物化学的酸素要求量（BOD）	ND	0.5	ND	1.5	0.7	ND	0.8	ND	1.7	0.9	-	-	-	-	-	-	-	30（日間平均20）	0.5
	化学的酸素要求量（COD）	7.6	7.5	8.4	19	8.5	5.0	8.3	9.4	9.6	7.0	9.5	10	18	10	9.3	16	14	30（日間平均20）	0.5
	浮遊物質（SS）	1	ND	ND	2	1	ND	ND	2	1	ND	1	5	6	ND	2	5	ND	50（日間平均40）	1
	大腸菌群数	0	-	-	0	8	-	0	-	22	0	-	-	-	-	-	-	-	（日間平均3000）	-
	油分（n-ヘキサン抽出物質）	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	30（鉱油類にあっては5）	0.5
	フェノール類	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	5	0.02
	銅含有量	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	3	0.3
	亜鉛含有量	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	5	0.5
	溶解性鉄含有量	0.06	ND	ND	ND	0.18	ND	ND	0.17	ND	ND	ND	ND	0.12	ND	ND	0.06	0.36	10	0.05
	溶解性マンガン含有量	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	10	0.4
	クロム含有量	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	2	0.2
	窒素含有量	ND	1	ND	2	1	1	ND	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	120（日間平均60）	1
	燐含有量	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	16（日間平均8）	0.1
健康項目	カドミウム及びその化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.03 ^(注5)	0.003	
	シアン化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	1	0.1	
	鉛及びその化合物	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01	
	有機燐化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	1	0.1	
	六価クロム化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.5	0.05	
	砒素及びその化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01	
	水銀及びアルキル水銀 その他の水銀化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.005	0.0005	
	アルキル水銀化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	検出されないこと	0.0005	
	P C B	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.003	0.0005	
	トリクロロエチレン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.1 ^(注6)	0.03	
	テトラクロロエチレン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01	
	ジクロロメタン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.2	0.02	
	四塩化炭素	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.02	0.002	
	1,2-ジクロロエタン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.04	0.004	
	1,1-ジクロロエチレン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.2	0.02	
	シス-1,2-ジクロロエチレン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.4	0.04	
	1,1,1-トリクロロエタン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	3	0.3	
	1,1,2-トリクロロエタン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.06	0.006	
	1,3-ジクロロプロペン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.02	0.002	
	チウラム	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.06	0.006	
	シマジン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.03	0.003	
	チオベンカルブ	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.2	0.02	
	ベンゼン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01	
	セレン及びその化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.1	0.01	
	ほう素及びその化合物	0.2	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	230	0.1	
	ふっ素及びその化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	15	0.8	
アモニア、アモニウム化合物、亜硝酸 化合物及び硝酸化合物	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	100	10		
1,4-ジオキサン	-	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.5	0.05		
その他	モリブデン	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	-	-	-	-	-	-	-	0.07		
	全マンガン	ND	-	-	ND	ND	-	ND	-	ND	ND	-	-	-	-	-	-	0.4		
	ウラン	0.0008	-	-	0.0011	0.0009	-	0.0004	-	0.0005	0.0011	-	-	-	-	-	-	0.0001		
	ダイオキシン類	3.4	0.0015	0.74	0.061	0.18	0.011	0.13	2.1	2.5	0.14	0.025	0.037	0.0095	1.4	0.0014	0.57	0.064	10	-

(注1)単位は、pH(-)、大腸菌群数(個/cm³)、ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)を除いて、mg/Lである。報告下限値未満の未満の数値は、NDと表記する。

(注2)有効数字は2桁とし、3桁目以下を切り捨て、報告下限値の桁を下回る桁については切り捨てる。なお、pHは小数点第2位以下を切り捨て、小数点以下1桁までとする。

(注3)下線：管理基準を満足していない項目

(注4)平成18年度及び平成30年度に項目、頻度などの見直しを行った。

(注5)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。（平成26年11月までの排水基準値は0.1mg/Lである。）

(注6)排水基準の変更に伴い、管理基準を変更した。（平成27年10月までの排水基準値は0.3mg/Lである。）

豊島廃棄物等処理事業報告書（仮称）の目次案の修正

豊島廃棄物等処理事業報告書（仮称）の目次案等については、第 45 回豊島廃棄物等管理委員会（H29. 4. 16 開催）及び第 11 回豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会（R3. 3. 25web 開催）において審議し・了承されたが、廃棄物対策豊島住民会議及び公害等調整委員会からの意見等を踏まえ、別紙 1 のとおり修正する。

豊島廃棄物等の処理を終えて-豊かな島の再生と循環型社会実現への道程-（仮称）

目次（案）

下線部…前回審議（令和3年3月25日第11回豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会）からの変更箇所

第1編 はじめに

1 事業者挨拶

香川県 浜田恵造知事 挨拶

豊島廃棄物等処理事業フォローアップ委員会 永田勝也委員長 挨拶

2 共創的関与者挨拶

直島町 小林眞一町長 挨拶

廃棄物対策豊島住民会議 議長 挨拶

3 関係者挨拶

環境大臣 挨拶

公害等調整委員会委員長 挨拶

豊島廃棄物処理協議会 高月紘会長 挨拶

4 地元関係者挨拶

直島漁業協同組合 高野勇代表理事組合長 挨拶

三菱マテリアル(株)直島製錬所 松谷輝之所長 挨拶

第1章 これまでの豊島廃棄物等処理事業のまとめ

1 豊島問題の経緯

2 豊島廃棄物等処理事業の概要

3 事業実施に当たっての基本的認識

4 事業遂行に当たっての基本的対応 - 「共創」の理念に基づく実施体制の構築 -

第2編 豊島廃棄物等の処理実施が完了するまで

第1章 調停成立に至るまで

1 豊島問題が生じた経緯

2 公害調停の開始

2-1 公害調停のあらまし

2-2 公害調停の協議内容（非公開を原則としているため、一部のみ）

2-3 調停委員会の調査結果

3 中間合意の成立

3-1 中間合意までの道のり

3-2 中間合意の概要

4 技術検討委員会での議論・報告

- 4-1 第1次検討委員会
- 4-2 第2次検討委員会
- 4-3 第3次検討委員会

5 直島処理案の提示と直島町の受入れ

- 5-1 直島町議会全員協議会での直島処理案の提案
- 5-2 直島町から提示された4条件
- 5-3 風評被害対策条例の制定に向けた検討
- 5-4 住民説明会・アンケートの実施
- 5-5 直島町長の受入れ

第2章 事業開始に至るまで

1 公害調停の成立

- 1-1 調停条項の概要
- 1-2 調停成立後の知事コメント
- 1-3 技術委員会への移行、処理協議会の設置

2 技術委員会での議論

- 2-1 各回で審議したことの概要
- 2-2 情報表示システム、海上輸送体制の構築等
- 2-3 管理委員会への移行

3 暫定的な環境保全措置の実施

- 3-1 遮水壁の打設
- 3-2 廃棄物等の移動
- 3-3 透気・遮水シートの敷設

4 処理事業を担う施設の整備

- 4-1 中間処理施設
- 4-2 中間保管・梱包施設
- 4-3 高度排水処理施設

第3章 処理完了後に新たに見つかった廃棄物

第3編 豊島廃棄物等管理委員会の活動—処理事業の実施—

第1章 廃棄物等の掘削から焼却・溶融等の処理まで

1 処理スキームの概要

2 掘削

- 2-1 基本的な考え方
- 2-2 底面掘削と掘削完了判定調査
- 2-3 第2次掘削計画
- 2-4 第3次掘削計画

3 混合・均質化

- 3-1 土壌比率
- 3-2 混合面の移設

4 輸送（海上・陸上）

- 4-1 概要説明
- 4-2 コンテナトラック
- 4-3 輸送船
- 4-4 栈橋等の改修・点検等

5 中間処理

- 5-1 溶融・焼却のスキーム

6 その他の廃棄物処理

- 6-1 直下汚染土壌
- 6-2 特殊前処理物等
- 6-3 覆土

7 新たに見つかった廃棄物の処理

- 7-1 汚泥
- 7-2 内容物入りドラム缶
- 7-3 空ドラム缶
- 7-4 豊島処分地における残存廃棄物の処理の状況

第2章 事業の実施—副成物の有効利用—

- 1 副成物の概要
- 2 スラグの有効利用
- 3 溶融飛灰・銅メタルの有効活用
- 4 アルミニウム
- 5 弱磁性体鉄

第3章 作業環境上の安全対策

- 1 健康管理委員会の概要
- 2 ひやり・ハット等への対策

第4章 処理対象物の推移（性状・量）

- 1 見直しの経緯
- 2 測量による残存量の推計
- 3 各種測量方法（レーザー・GPS）
- 4 処理量と実績との推移
- 5 公調委調査との差、その理由

第5章 廃棄物等の処理量アップ対策

- 1 豊島側
- 2 中間処理施設側
- 3 その他

第6章 国等とのやり取り

- 1 豊島廃棄物等処理事業の実現可能性調査への補助
- 2 施設整備に係る補助
- 3 特措法に基づく実施計画の策定と変更
- 4 国への届け出

第7章 排水・地下水浄化対策

- 1 排水・浄化対策の概要
- 2 排水・浄化施設毎の説明
- 3 概況調査・詳細調査の状況
- 4 周辺環境モニタリングの実施と結果
- 5 水生生物等の調査と結果
- 6 今後の対策

第8章 発生したトラブルとその対応

- 1 各種施設におけるトラブル
 - 1-1 中間処理施設における/中間保管・梱包施設/高度排水処理施設
- 2 陸上・海上輸送におけるトラブル

第9章 事業の適切な実施・管理のための外部評価業務

- 1 業務の概要
- 2 これまでの評価・指摘
- 3 当該評価を行った意義

第10章 事業の環境性・経済性の評価

- 1 評価の概要
- 2 豊島事業の環境性評価
- 3 豊島事業の経済性評価
- 4 豊島事業の環境性・経済性の総合的評価
- 5 当該評価を行った意義

第11章 積極的な情報の公開と共有

- 1 情報公開・共有に係る考え方
- 2 情報表示システムの整備・管理
- 3 県HPでの開示（豊島廃棄物処理事業情報）
- 4 緊急時の情報提供
- 5 住民等からの意見
- 6 見学者の受入れ

第12章 豊島事業関連施設の撤去等

- 1 豊島施設の撤去等
- 2 直島中間処理施設の撤去等

第4編 各種施設の維持管理

第1章 共通（豊島・直島共通）

第2章 豊島処分地

第3章 海上輸送・陸上輸送

第4章 中間処理施設

第5章 高度排水処理施設

第5編 **共創的関与者**との関わり合い

第1章 豊島住民との関わり合い

- 1 処理協議会
- 2 事務連絡会

第2章 直島町民との関わり合い

- 1 エコアイランドなおしまプランの策定
- 2 豊島廃棄物等海上輸送連絡調整会
- 3 環境のまち・直島推進委員会
- 4 直島町活性化対策特別委員会
- 5 風評被害対策

第6編 豊島廃棄物等の処理を終えて

第1章 豊島事件の教訓

第2章 今後の課題

第3章 本事業で発見・展開された技術等

第4章 処理事業に対する思い

- 1 豊島廃棄物等管理委員会（委員・技術アドバイザー）
- 2 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
- 3 田代健弁護士
- 4 岡市友利前豊島廃棄物処理協議会会長
- 5 氏家睦夫前豊島廃棄物等処理施設撤去等事業健康管理委員会委員長
- 6 株式会社NTTデータ経営研究所
- 7 杵築技術士事務所
- 8 クボタ環境サービス株式会社
- 9 日本通運株式会社
- 10 土庄中央漁業協同組合
- 11 唐櫃漁業協同組合
- 12 土庄町
- 13 岡山県
- 14 玉野市
- 15 福岡県
- 16 豊島弁護団

第5章 特別寄稿

真鍋武紀前知事

第7編 その他

第1章 用語集

第2章 年表

第3章 中間合意・調停条項

第4章 協定・覚書等

第5章 図面や写真

第6章 マニュアル（名称のみ）

第 11 回 FU 委員会において頂いた報告書目次案に対する
豊島住民会議の意見・コメントに対する委員長としての見解

永田 勝也

豊島廃棄物等処理事業は「共創」の理念のもとで進められてきた。平成 29 年 3 月には豊島からの廃棄物等の搬出が終了した。これを一つの節目として、それまでの豊島廃棄物等処理事業の経緯や意義、内容、関係者のコメント等をまとめ、後世に残すことを企図して報告書を作成することとした。

第 1 次の報告書目次案が第 45 回管理委員会(平成 29 年 4 月 16 日開催)に提出・了承されたことから、県では執筆に取り掛かる体制を整えることとした。しかしながら、その後豊島処分地における新たな残存廃棄物の発見や広範な地下水汚染の判明等があり、これらへの対処に県職員は専念せざるを得なくなった。こうした状況から報告書への対応が先伸ばしされることになった。

第 2 次の報告書目次案は、第 11 回 FU 委員会(令和 3 年 3 月 25 日 web 開催)に審議資料として提出され、審議された。この第 2 次案では、その時点までに実施してきた施設の解体撤去や新たに発見された廃棄物等の処理についても含める修正が加えられている。なお、施設の撤去については、第 I 期工事(豊島の間保管梱包施設や特殊前処理施設、直島の間処理施設等)を中心に、直島の専用棧橋や高松等の 3 つのスラグステーションの解体撤去を含めた報告書を取りまとめ、第 9 回撤去検討会(令和 3 年 3 月 25 日 web 開催)で審議・了承を経て、各委員や関係者に送付されている。

第 2 次報告書目次案については、豊島住民会議から以下に示すような意見を頂いた。「共創」の理念に関する重要な指摘もあることから、ここに委員長としての見解を示しておく。

【豊島住民会議】

基本的な考え方

豊島廃棄物等処理事業(以下「本事業」といいます)の事業主体が香川県であり、本報告書が、本事業の記録として香川県において作成するものであることは承知しています。

しかしながら、香川県が本事業を行う出発点となった公害調停において、香川県は豊島住民と相対立する一方の当事者であったものであり、本報告書の作成においても、その視点は忘れてはならないと考えます。

また、調停成立後においては、豊島住民は「共創の理念」に基づき、本事業の実施に参加してきたものであり、本報告書の作成においても、「共創の理念」に基づき、豊島住民が正当に位置付けられるべきであると考えます。

【委員長としての見解】

この意見に異論を唱えるものではない。しかしながら、「共創」の理念は一方向的なものではなく、役割が異なる主体的関係者の協調がなくしては実現しないことを断っておく。

本報告書は、国税及び県税等の多額の公的資金を使い、香川県民や県議会の支援を受け、かつ多数の関係者の協力を得て香川県が責任と権限をもって実施した豊島廃棄物等処理事業につき、その集大成として取りまとめようとするものである。役割の異なる「共創」の主体的な当事者として、上記の視点に立った報告書を作成するのは県の責務である。

物事の見方は多面的であってこそ後世の役に立つ。豊島住民会議も自らの立場での報告書をまとめ、我々に示してほしい。

【豊島住民会議】

「第2編 豊島廃棄物等の処理実施が完了するまで」「第1章 調停成立に至るまで」「1 豊島問題が生じた経緯」においては、「廃棄物の認定を誤り、豊島総合観光開発株式会社に対する適切な指導監督を怠った結果、本件処分地について土壌汚染、水質汚濁等深刻な事態を招来し、申請人らを含む豊島住民に長期にわたり不安と苦痛を与えた」（調停条項1項）との事実は明記されるべきであると考えます。

【委員長としての見解】

調停条項に上記の記述があることは、十分に了解している。この内容を報告書のいずれの箇所に記載するか、報告書の素案の作成・審議で検討する。

重要な点は、調停条項1項が指摘するように、廃棄物の不法投棄や不適正処理等が周辺環境の汚染・破壊や住民の安全・健康への懸念を生起させ、これらを通じて周辺住民に多大の不安と苦痛、苦悩を与えることである。こうした点は豊島問題の反省として極めて重要であり、後世に伝えていかなければならないことである。したがって第2編だけでなく、報告書全編が上述した視点をもって記述されなければならないものと考えている。

【豊島住民会議】

「第5編 関係住民との関わり合い」「第1章 豊島住民との関わり合い」については、「第1章 豊島住民の位置付け」に変更することが妥当であると考えます。

【委員長としての見解】

章節項等の正式な題名は、素案作成後の審議の際に、その内容を見たうえで考慮することにしたい。また当然ながらその際には、章節項等やそれに関する記述の追加等も考えることとなろう。

確かに題名によって記述内容は変わるが、現在の目次案での指摘の箇所の記載内容は処理協議会や事務連絡会の構成や協議内容等を記載することになっており、この内容は「豊島住民の位置付け」にそぐわない。必ずしも「豊島住民との関わり合い」が適切とは言えないが、いずれにしても、今後素案作成やその審議の際に題名を再考することにしたい。ただし、この第5編の題名「関係住民との関わり合い」は、第2章に直島町も入っていることから、「共創的関与

者との関わり合い」に変更する。

指摘の「豊島住民の位置づけ」については、新たに設けることとした第1編の「第1章 これまでの豊島廃棄物等処理事業のまとめ」のなかに「4 事業遂行に当たっての基本的対応 – 「共創」の理念に基づく実施体制の構築 –」があり、ここでその意図するところを記述することになろう。

【豊島住民会議】

「第1編 はじめに」「第2章 地元関係者挨拶」の中に、「廃棄物対策豊島住民会議」を入れていただくことが妥当であると考えます。

「第6編 豊島廃棄物等の処理を終えて」「第4章 処理事業に対する思い」には、「豊島弁護士」を入れていただくことが妥当であると考えます。

【委員長としての見解】

FU 委員会における報告・審議等の資料は、委員長として事前に数次の県との打ち合わせを行ったうえで確定させている。本報告書の目次案も例外でなく、第11回FU委員会の事前打合せで委員長として、豊島住民会議については第1編第2章「地元関係者挨拶」に、また同弁護士については第6編第4章「処理事業に対する思い」のなかで寄稿いただく案に賛同し、記載するよう指導・助言した。

これを受けて県では、3月16日の事務連絡会並びに同20日の処理協議会の場において2回に渡り口頭で、その依頼を行ったが、「即答できない」との回答であったと聞いている。したがって、目次案からは、その記載を割愛したいとの要請を受け、了承した。

前述したように、「共創」は一方向的なものではない。今回住民会議への要請を行ってからFU委員会までに10日程度の期間があった。確かに口頭での対応は問題であり、目次案全体を提示しての依頼が望ましかったことは否めないが、この間に住民会議からの反応がなかった点は残念である。いずれにしても、豊島住民会議から要請のあった対応は、当初から県も準備していたものであったことを確認しておく。

なお、今回の修正目次案では、住民会議の共創的関与者としての位置づけをより明確にした。

豊島事業関連施設の撤去についての第Ⅰ期工事等に関する報告書の作成

副題：～豊島の間接保管・梱包施設及び特殊前処理物処理施設

並びに直島の間接処理施設及び専用棧橋の撤去等～

豊島廃棄物等処理施設の解体撤去は、大きく2つの時期に分けて行われる。

今後実施予定の第Ⅱ期工事では、処分地全域での地下水の排水基準の達成がなされた時点以降に、地下水浄化の施設・設備・装置等の撤去を行う。第Ⅱ期の主な対象は、高度排水処理施設やトレンチドレーン、沈砂池、豊島側の専用棧橋などであり、これに加えて第Ⅱ期工事には含まれないが、適切な時期に遮水機能の解除や整地を実施する。

一方、第Ⅰ期はこれまでに実施した工事であり、豊島からの廃棄物等の搬出・処理に用いられた施設・設備・装置等が役割を終えたことにより解体撤去した。主な対象は、豊島の間接保管・梱包施設、特殊前処理物処理施設及び直島の間接処理施設(一部は(株)三菱マテリアルに譲渡)である。なお第Ⅰ期工事には含まれないが、同期間中には廃棄物運搬船「太陽」と専用コンテナトラック38台に対しても廃棄物等の洗浄除去を行い、株式会社日本通運に返却した。加えて直島の専用棧橋や高松を含む3つのスラグステーションの解体撤去も実施した。本報告は、以上の第Ⅰ期工事及び関連工事が完了したことから、これを取りまとめたものである。

今回の第Ⅰ期工事等で得られた知見は極めて貴重で重要なものである。この成果は今後の第Ⅱ期工事にも活用していく。